

### 8-3 南海トラフ周辺の地殻活動（2022 年 5 月～10 月） Crustal Activity around the Nankai Trough (May - October 2022)

気象庁  
Japan Meteorological Agency

#### 1. 南海トラフ周辺の地殻活動（第 1 図～第 15 図）

2022 年 5 月～10 月の南海トラフ沿いとその周辺地域の震央分布図を第 1 図に、東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震の震央分布図を第 2 図に示す。また、主な地震の発震機構解を第 3 図に示す。詳細は、地震・火山月報（防災編）を参照<sup>1)～6)</sup>。

#### 【南海トラフ周辺】

今期間、M5.0 以上の地震は以下のとおりであった。

- ・2022 年 5 月 2 日 16 時 08 分 日向灘（フィリピン海プレートと陸のプレートの境界の地震）M5.0
- ・2022 年 10 月 2 日 00 時 02 分 大隅半島東方沖（フィリピン海プレートと陸のプレートの境界の地震）M5.9

以下の期間でまとまった深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべりが観測された。

- ・2022 年 4 月 30 日から 5 月 10 日まで、四国東部（第 4 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 5 月 18 日から 5 月 31 日まで、紀伊半島北部から紀伊半島中部（第 5 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 6 月 4 日から 6 月 5 日まで、四国西部（第 6 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 6 月 14 日から 6 月 19 日まで、四国西部（第 7 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 7 月 7 日から 7 月 13 日まで、四国西部（第 8 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 7 月 15 日から 7 月 16 日まで、四国西部（第 8 図 (a), (b)）。周辺のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 7 月 25 日から 7 月 29 日まで、四国東部（第 9 図）。
- ・2022 年 8 月 8 日から 8 月 14 日まで、四国西部（第 10 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 8 月 15 日から 8 月 20 日まで、四国東部（第 10 図 (a)）。
- ・2022 年 8 月 23 日から 8 月 30 日まで、四国中部（第 11 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 9 月 1 日から 9 月 13 日まで、四国西部（第 12 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。
- ・2022 年 9 月 28 日から 10 月 3 日まで、紀伊半島西部（第 13 図 (a), (b)）。周辺の複数のひずみ計で変化あり。

- ・2022 年 9 月 30 日から 10 月 5 日まで，紀伊半島北部（第 13 図 (a), (c)）．周辺の複数のひずみ計で変化あり．
- ・2022 年 10 月 16 日から 10 月 24 日まで，東海（第 14 図 (a), (b)）．周辺の複数のひずみ計で変化あり．
- ・2022 年 10 月 16 日から 10 月 23 日まで，四国東部（第 15 図 (a), (b)）．周辺のひずみ計で変化あり．

## 2. プレート境界とその周辺の地震活動（第 16 図，第 17 図）

想定南海トラフ地震は，陸側のプレートと沈み込むフィリピン海プレートの境界で発生する地震である．ここでは，震源の深さと発震機構解の型からプレート境界付近で発生した地震及び発震機構解を抽出し，プレート境界付近の地震活動の推移を示す．

第 16 図 (a), (b) は，Hirose et al.(2008)<sup>7)</sup> 及び Baba et al.(2002)<sup>8)</sup> によるフィリピン海プレート上面の深さから ± 6km の地震を抽出し地震活動の推移を見たものである．

第 17 図は，想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出したものである．プレート境界で発生したと考えられる地震の他，その震源の深さから考えて明らかに地殻内やスラブ内で発生したと推定される地震も含まれている．

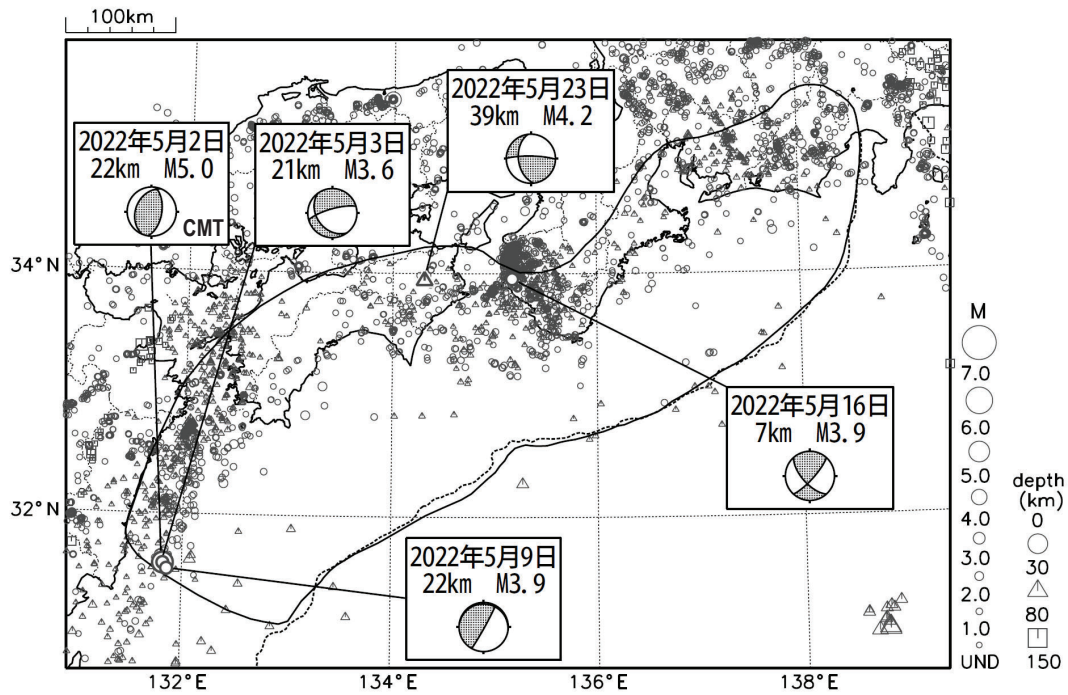
## 3. 南海トラフ周辺の地震活動の推移（第 18 図，第 19 図）

想定南海トラフ地震は，陸側のプレートと沈み込むフィリピン海プレートの境界で発生する地震であるが，南海トラフ周辺では，日向灘を除きプレート境界で発生する地震が少ない．ここでは，南海トラフ周辺を個々の領域に分け，地殻内の地震とフィリピン海プレート内，もしくは浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震について地震活動の推移を示す．第 18 図は，それぞれの領域について直近の地震活動指数を表にまとめたものである．第 19 図 (a) ~ (c) は，それらの地震活動指数の変化を示すグラフである．

## 参考文献

- 1) 気象庁 (2022), 南海トラフ周辺の地殻活動, 令和 4 年 5 月地震・火山月報 (防災編), 27.
- 2) 気象庁 (2022), 南海トラフ周辺の地殻活動, 令和 4 年 6 月地震・火山月報 (防災編), 23.
- 3) 気象庁 (2022), 南海トラフ周辺の地殻活動, 令和 4 年 7 月地震・火山月報 (防災編), 21.
- 4) 気象庁 (2022), 南海トラフ周辺の地殻活動, 令和 4 年 8 月地震・火山月報 (防災編), 27.
- 5) 気象庁 (2022), 南海トラフ周辺の地殻活動, 令和 4 年 9 月地震・火山月報 (防災編), 22.
- 6) 気象庁 (2022), 南海トラフ周辺の地殻活動, 令和 4 年 10 月地震・火山月報 (防災編), 18.
- 7) Hirose, F., J. Nakajima, and A. Hasegawa. (2008), *J. Geophys. Res.*, **113**, doi:10.1029/2007JB005274.  
Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography.
- 8) Baba, T., Y. Tanioka, P. R. Cummins, and K. Uehira. (2002), *Phys. Earth Planet. Inter.*, **132**, 59-73.  
The slip distribution of the 1946 Nankai earthquake estimated from tsunami inversion using a new plate model.

南海トラフ沿いの地震活動 2022年 5 月

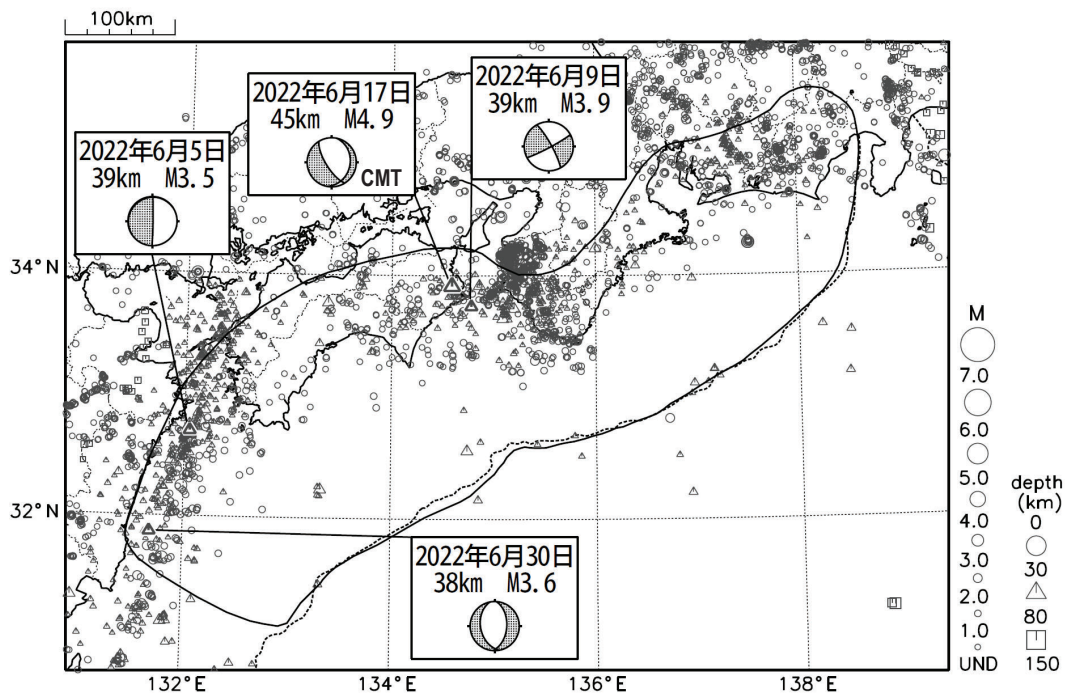


・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

第 1 図 (a) 南海トラフ周辺の月別震央分布 (2022 年 5 月).

Fig. 1(a) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (May 2022).

南海トラフ沿いの地震活動 2022年 6 月

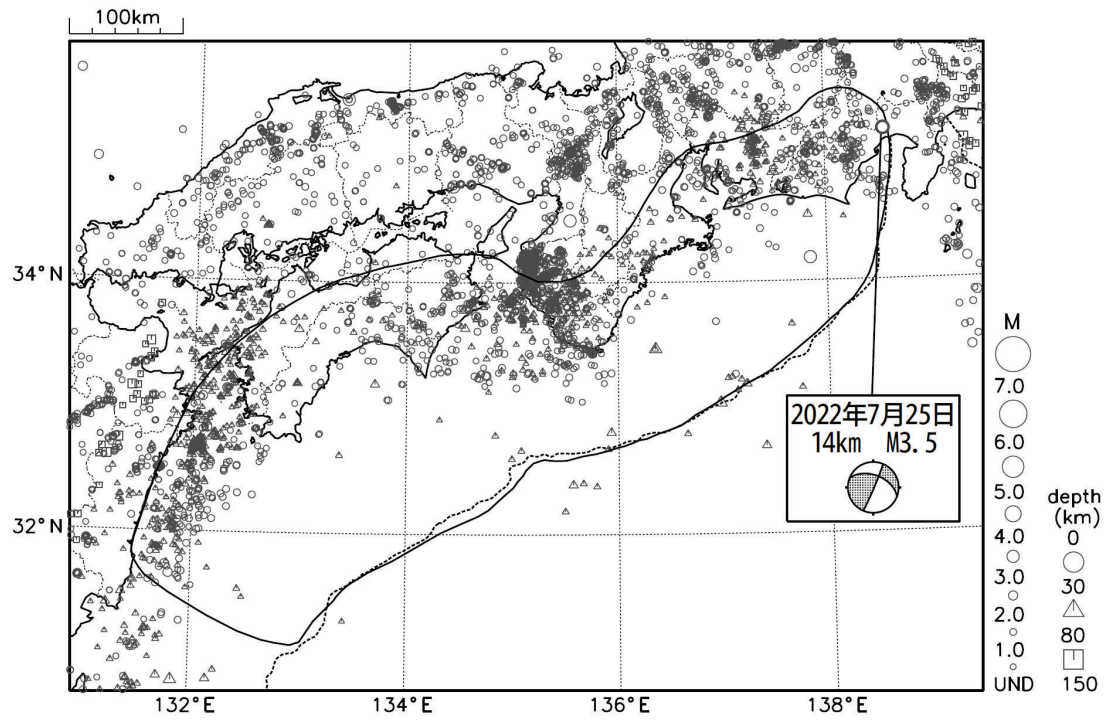


・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

第 1 図 (b) つづき (2022 年 6 月).

Fig. 1(b) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (June 2022).

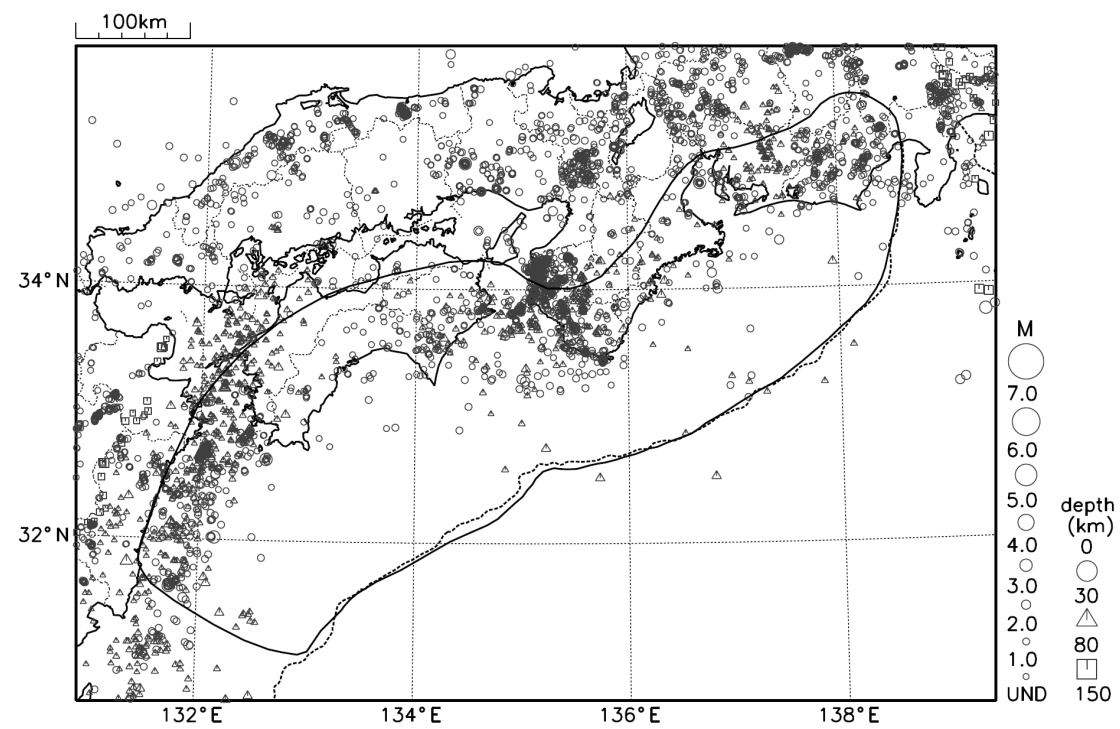
南海トラフ沿いの地震活動 2022年 7 月



第 1 図 (c) つづき (2022 年 7 月).

Fig. 1(c) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (July 2022).

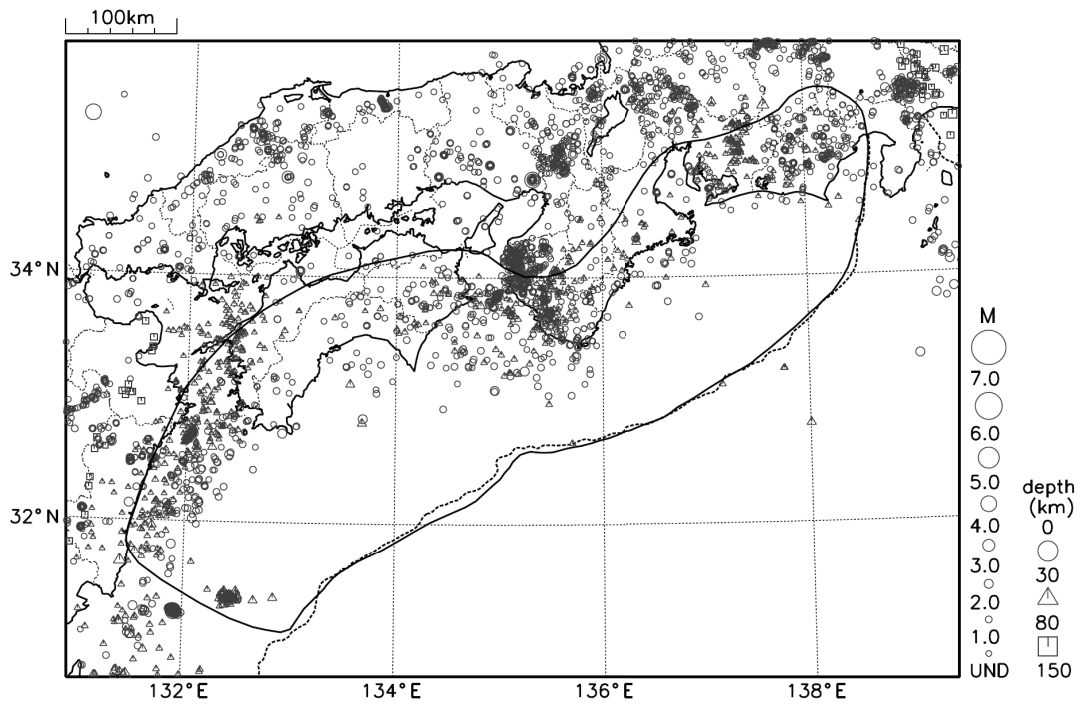
南海トラフ沿いの地震活動 2022年 8 月



第 1 図 (d) つづき (2022 年 8 月).

Fig. 1(d) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (August 2022).

南海トラフ沿いの地震活動 2022年9月

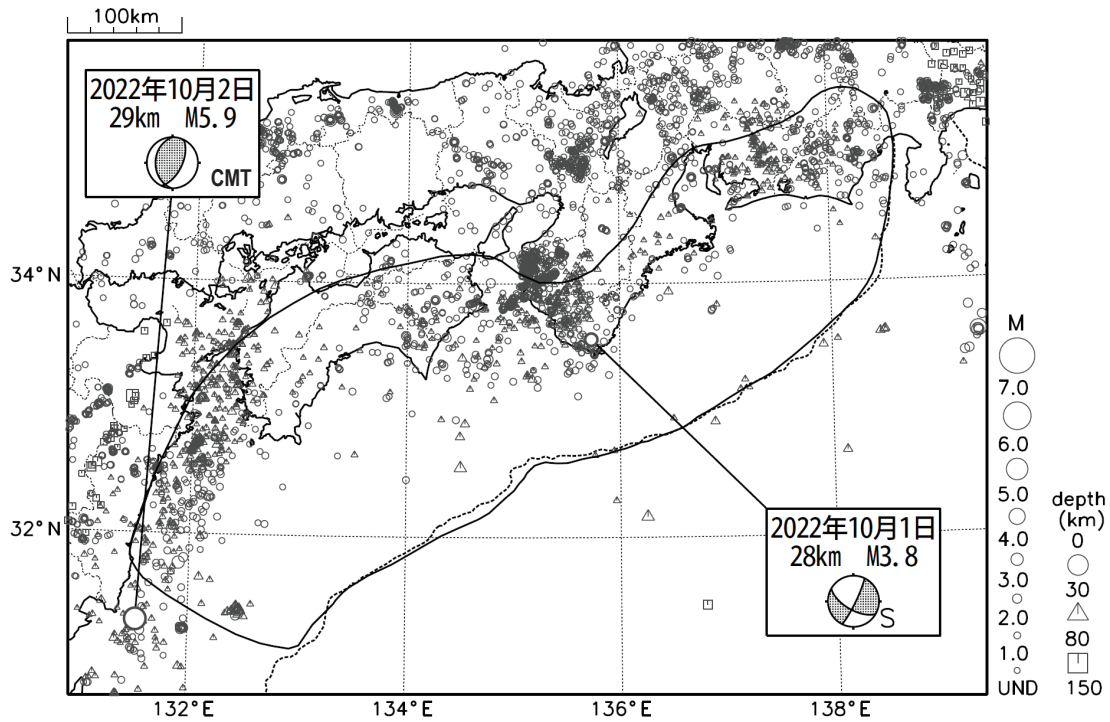


・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

第 1 図 (e) つづき (2022 年 9 月).

Fig. 1(e) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (September 2022).

南海トラフ沿いの地震活動 2022年10月

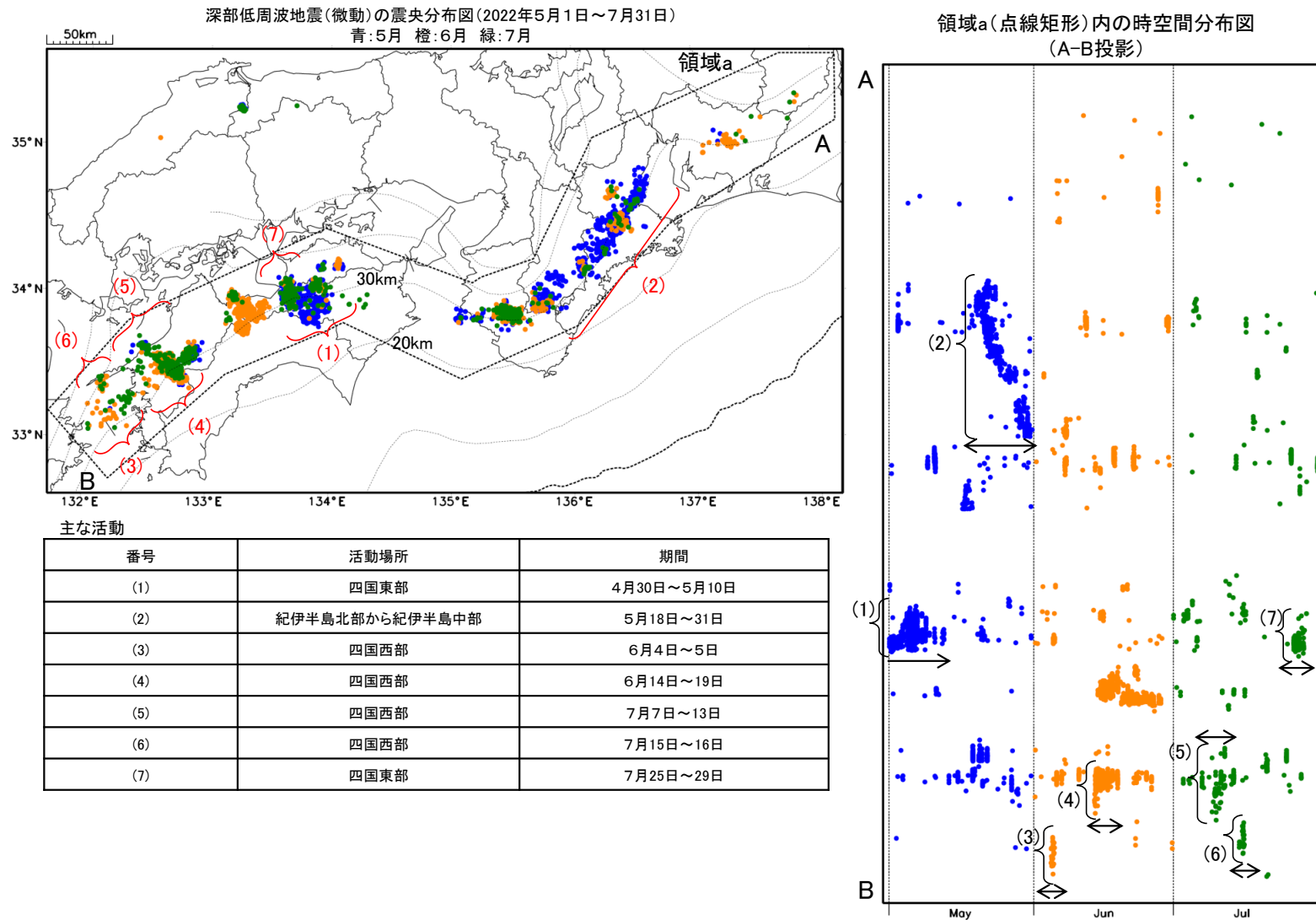


・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

第 1 図 (f) つづき (2022 年 10 月).

Fig. 1(f) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (October 2022).

## 深部低周波地震(微動)活動



点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

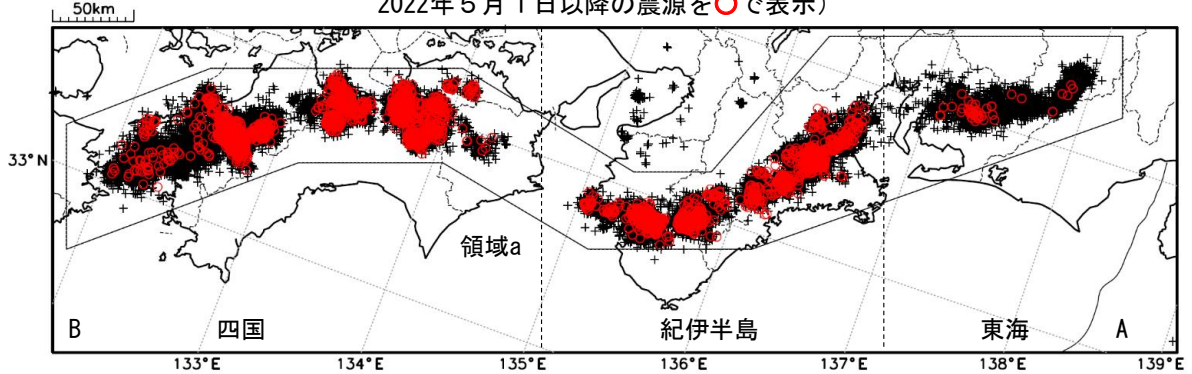
第2図(a) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動(2022年5月~7月)。

Fig. 2(a) Seismic activity of Low-Frequency Events from the Tokai region to the Bungo Channel (May – July 2022).

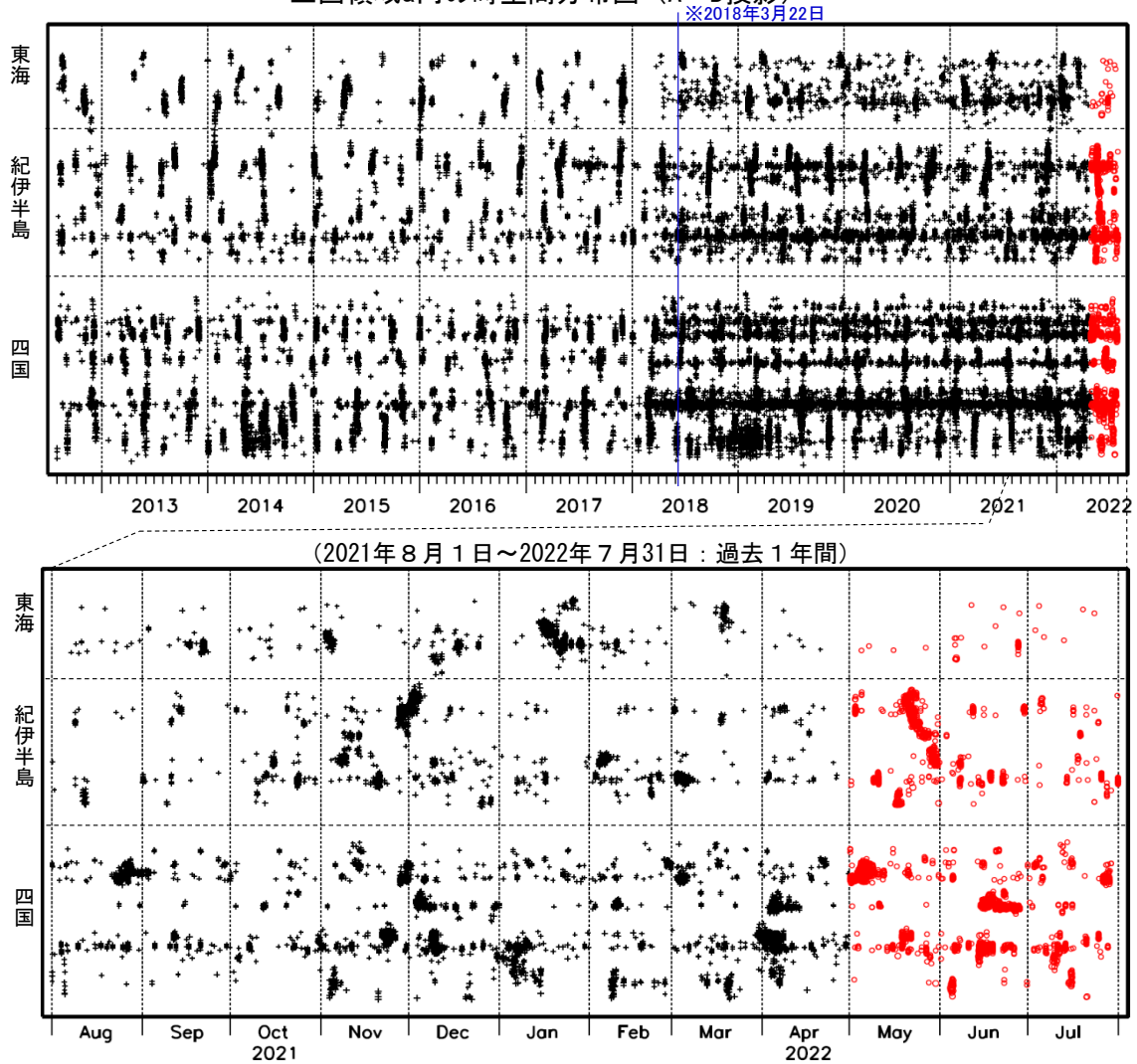
## 深部低周波地震（微動）活動（2012年 8 月 1 日～2022年 7 月31日）

深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

震央分布図（2012年 8 月 1 日～2022年 7 月31日：過去10年間  
2022年 5 月 1 日以降の震源を○で表示）



上図領域a内の時空間分布図（A-B投影）

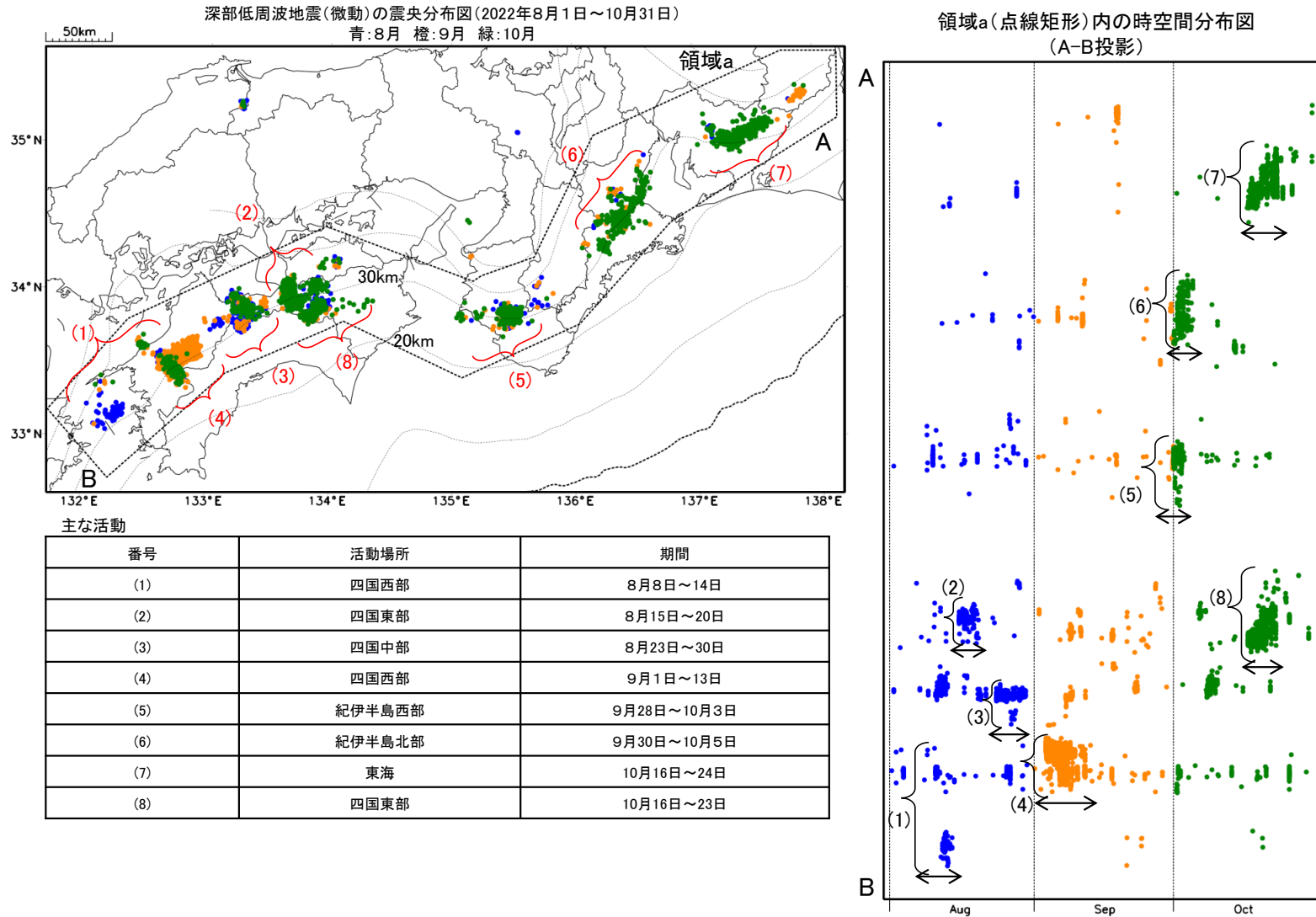


※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更 (Matched Filter法の導入) により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

第 2 図 (b) つづき (2012 年 8 月～2022 年 7 月).

Fig. 2(b) Continued (August 2012 – July 2022).

## 深部低周波地震(微動)活動



点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

第2図(c) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動(2022年8月~10月)。

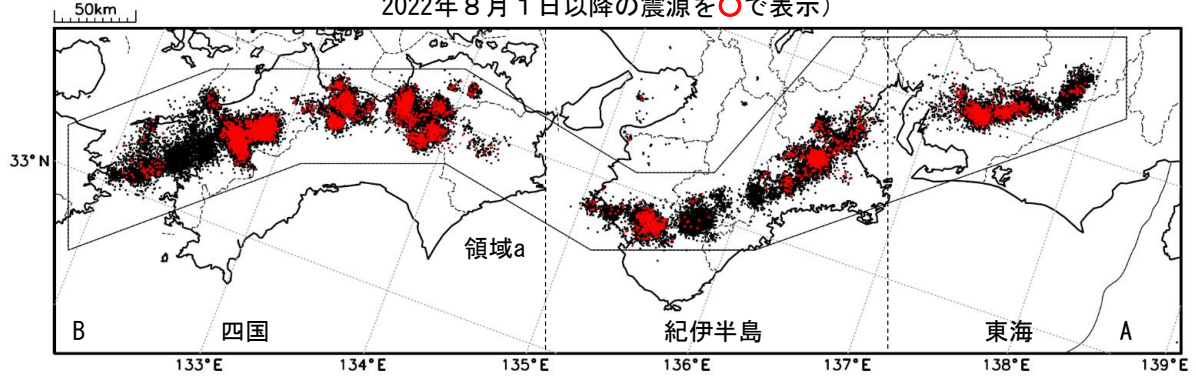
Fig. 2(c) Seismic activity of Low-Frequency Events from the Tokai region to the Bungo Channel (August – October 2022).



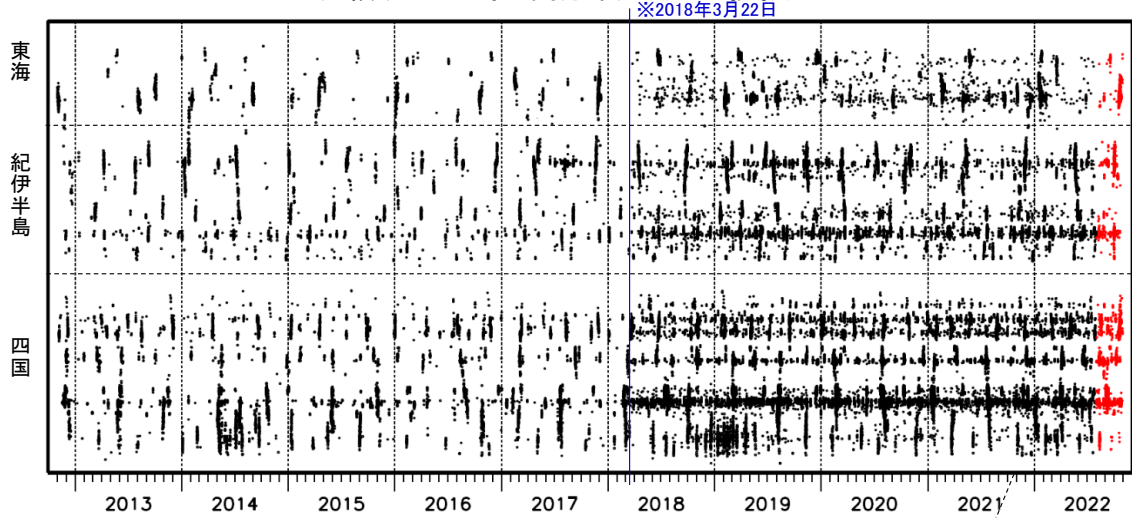
## 深部低周波地震（微動）活動（2012年11月1日～2022年10月31日）

深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

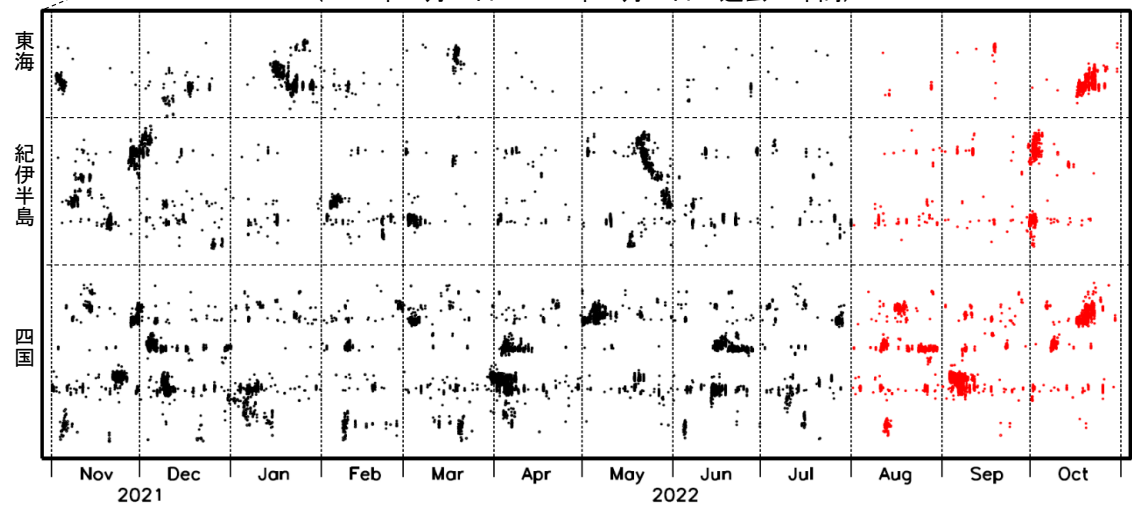
震央分布図（2012年11月1日～2022年10月31日：過去10年間  
2022年8月1日以降の震源を○で表示）



上図領域a内の時空間分布図（A-B投影）



（2021年11月1日～2022年10月31日：過去1年間）



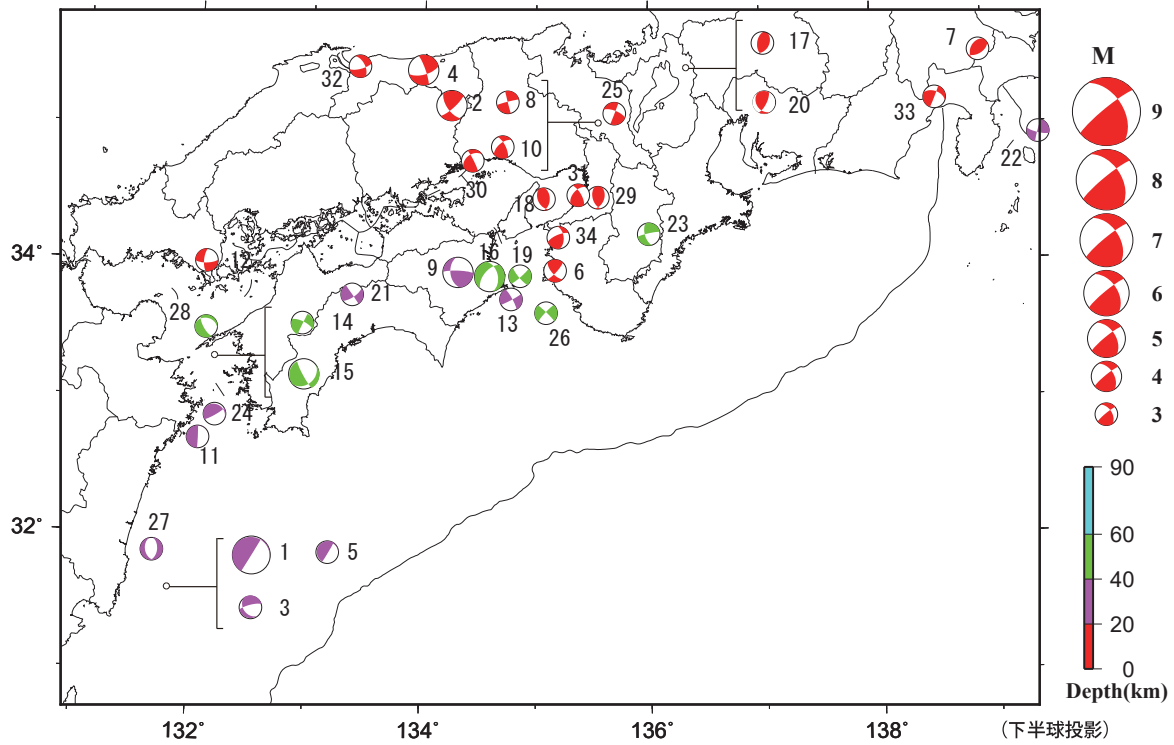
※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更（Matched Filter法の導入）により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

第2図(d) つづき（2012年11月～2022年10月）。

Fig. 2(d) Continued (November 2012 – October 2022).

南海トラフ沿いとその周辺の発震機構解

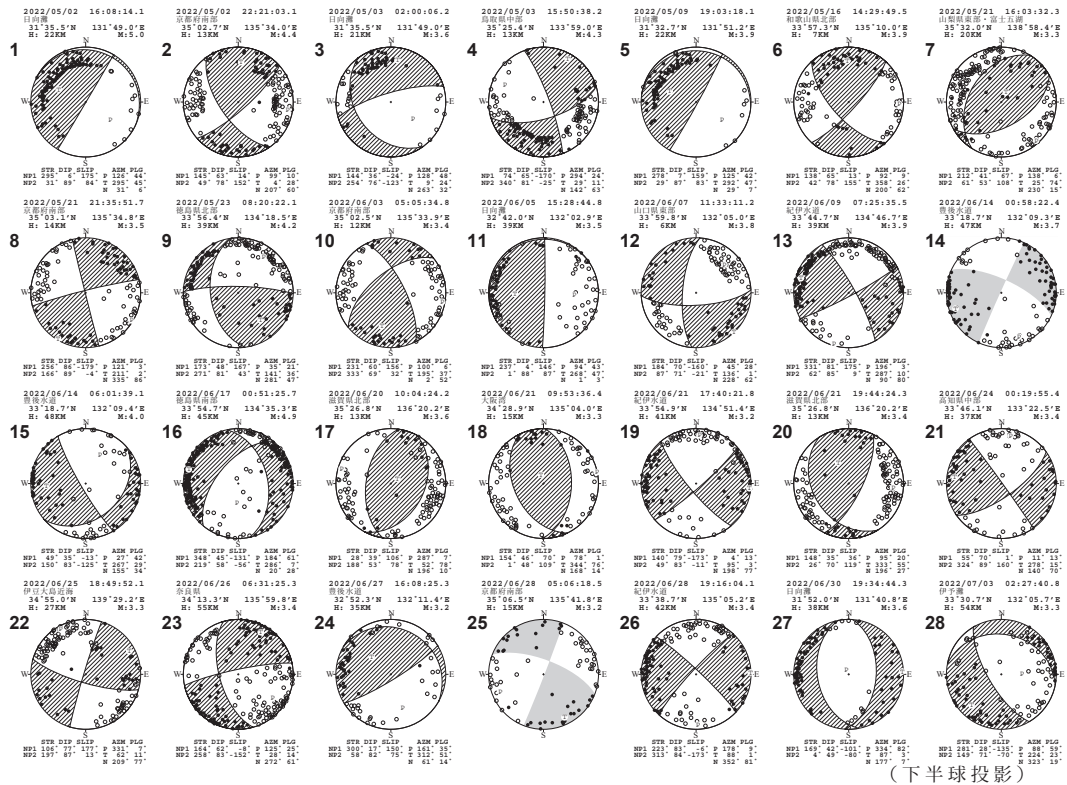
Period:2022/05/01 00:00—2022/07/31 24:00



第 3 図 (a) 南海トラフ周辺で発生した主な地震の発震機構解 (2022 年 5 月～7 月)。

Fig. 3(a) Focal mechanism solutions for major earthquakes in and around the Nankai Trough (May – July 2022).

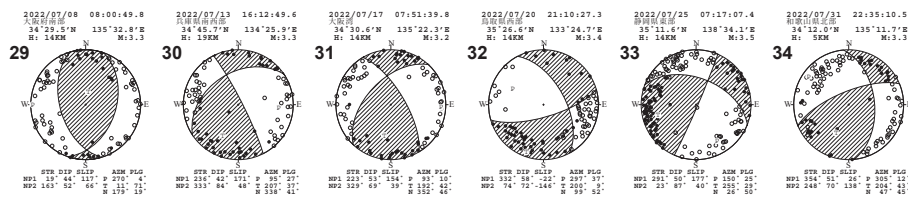
南海トラフ沿いとその周辺の発震機構解 (2)



第 3 図 (b) つづき (2022 年 5 月～7 月)。

Fig. 3(b) Continued (May – July 2022).

南海トラフ沿いとその周辺の発震機構解 (3)



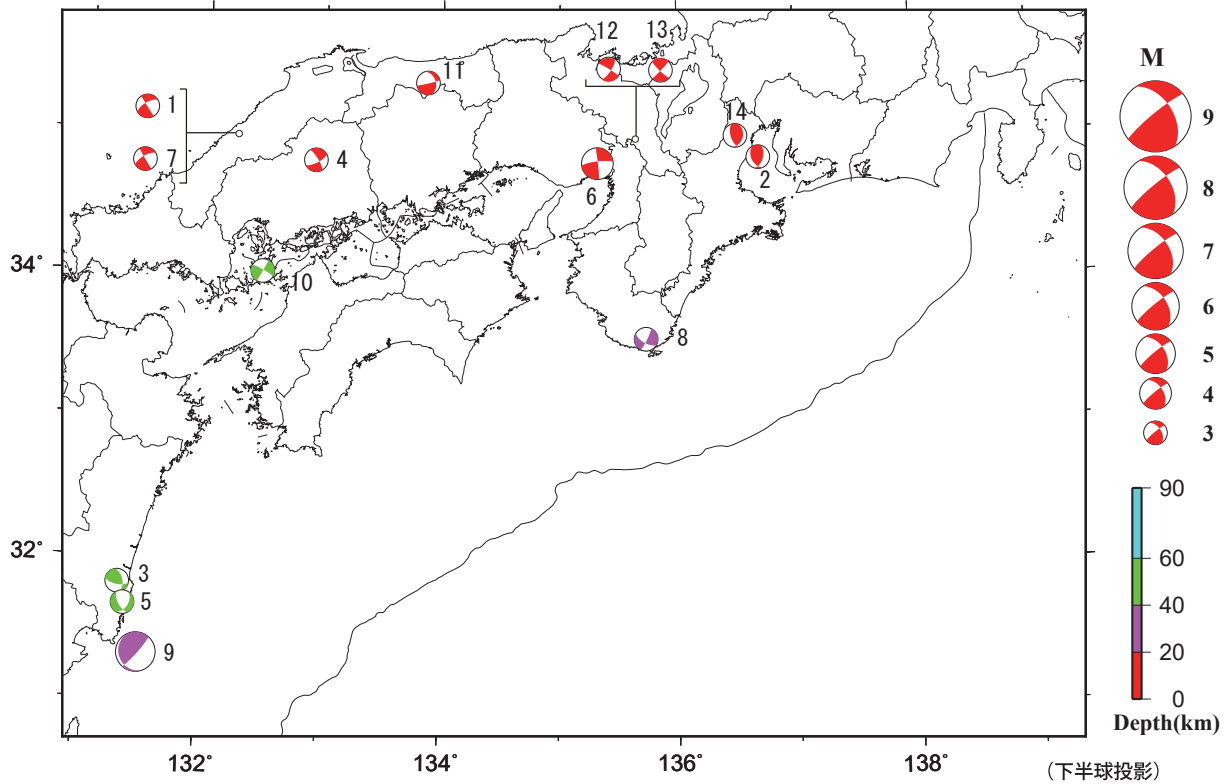
(下半球投影)

第 3 図 (c) つづき (2022 年 5 月～7 月).

Fig. 3(c) Continued (May – July 2022).

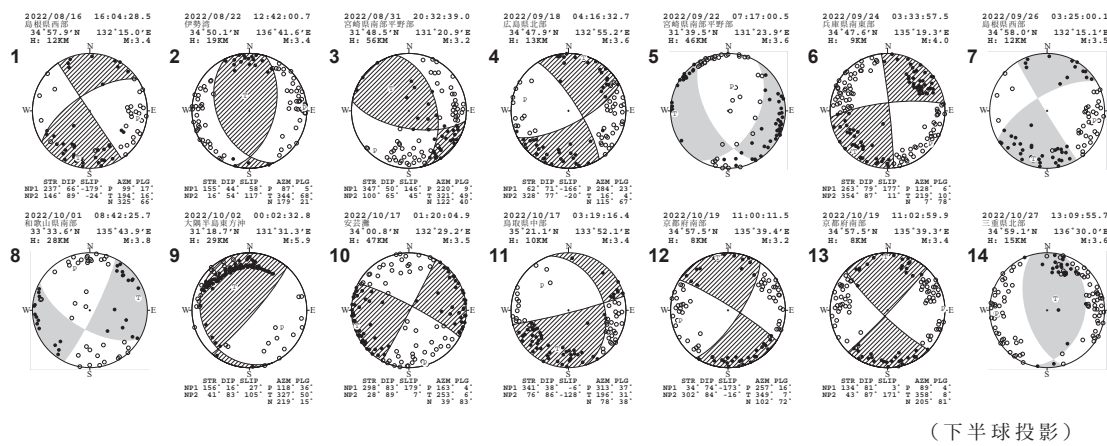
南海トラフ沿いとその周辺の初動発震機構解

Period:2022/08/01 00:00—2022/10/31 24:00



第 3 図 (d) つづき (2022 年 8 月～10 月).  
Fig. 3(d) Continued (August – October 2022).

南海トラフ沿いとその周辺の初動発震機構解 (2)



第 3 図 (e) つづき (2022 年 8 月～10 月).  
Fig. 3(e) Continued (August – October 2022).

## 四国東部の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

4月30日から5月10日にかけて、四国東部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

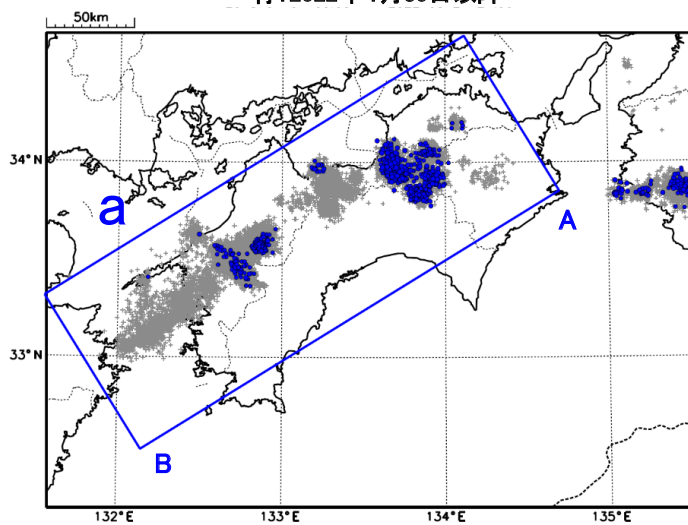
### 深部低周波地震(微動)活動

#### 震央分布図

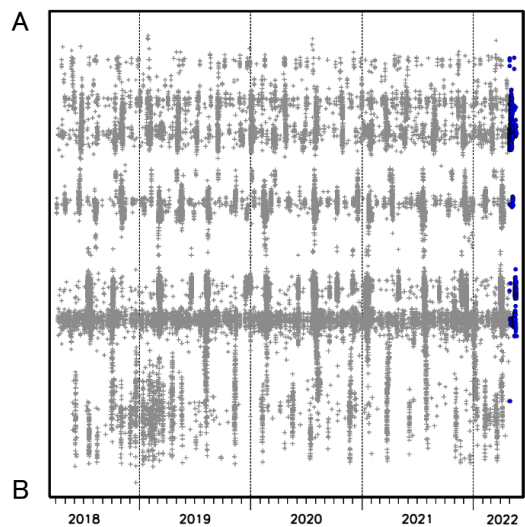
(2018年4月1日~2022年5月24日、深さ0~60km、Mすべて)

灰:2018年4月1日~2022年4月29日、

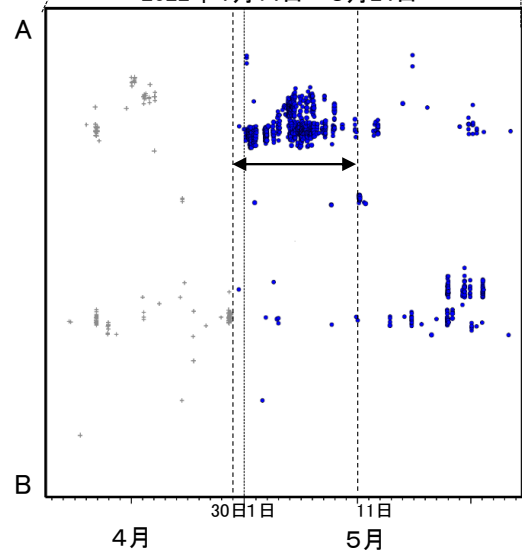
青:2022年4月30日以降



#### 領域a内の時空間分布図(A-B投影)



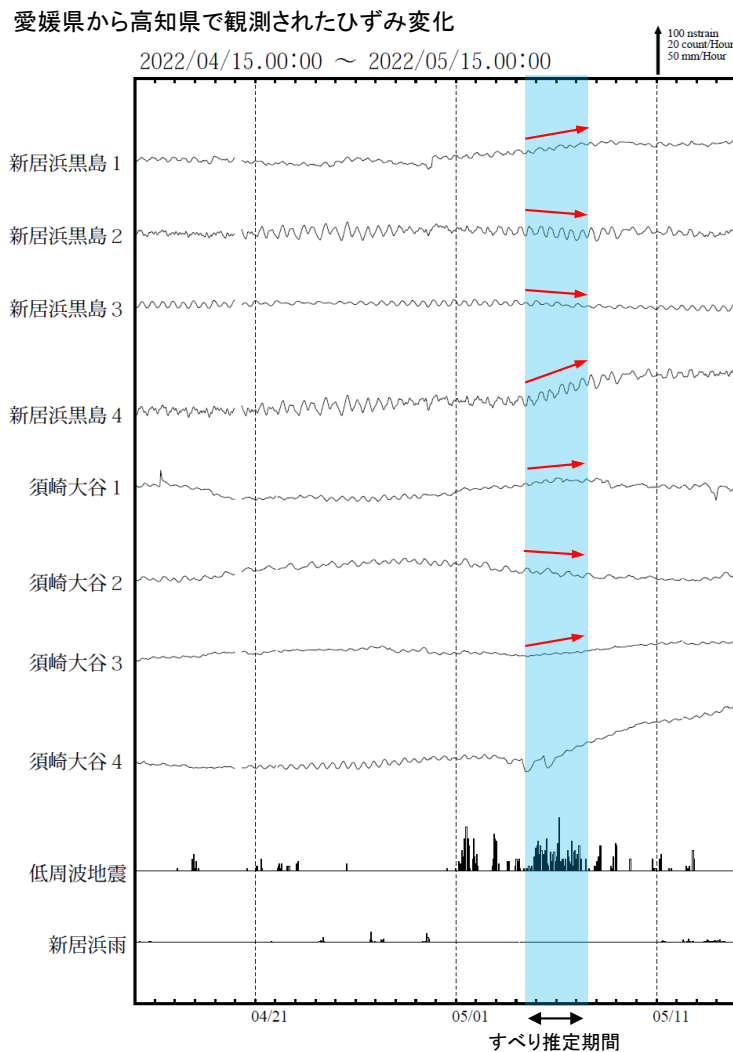
#### 2022年4月14日~5月24日



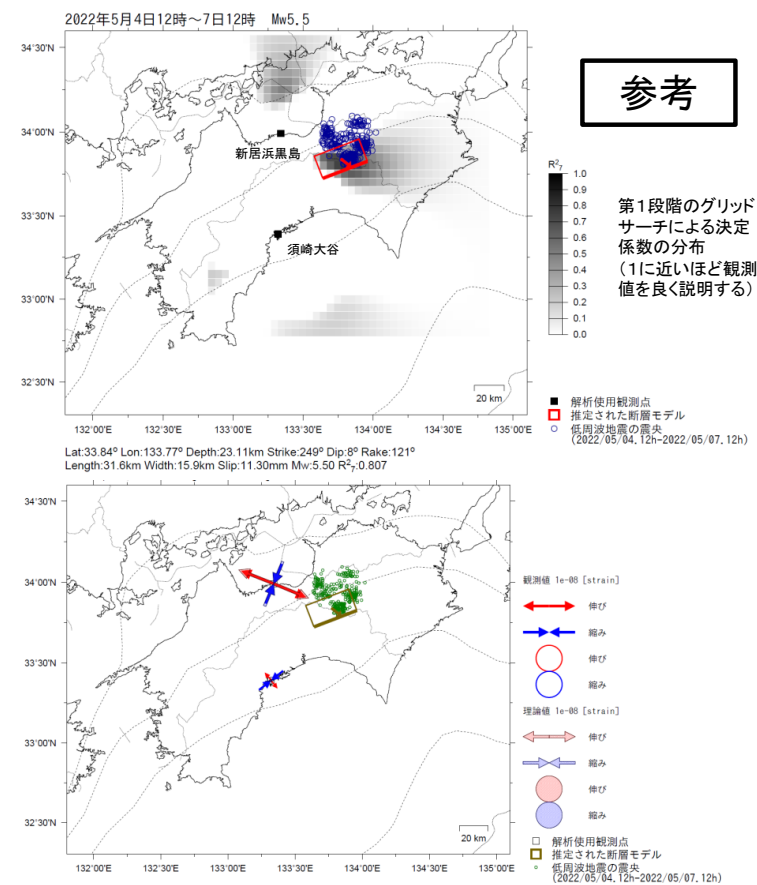
第 4 図 (a) 四国東部の深部低周波地震活動とひずみ変化、及び推定されるゆっくりすべり領域。

Fig. 4(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in eastern part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

## 四国東部で観測した短期的ゆっくりすべり(5月4日～7日)



新居浜黒島及び須崎大谷は産業技術総合研究所のひずみ計である。



左図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第 4 図 (b) つづき.  
Fig. 4(b) Continued.

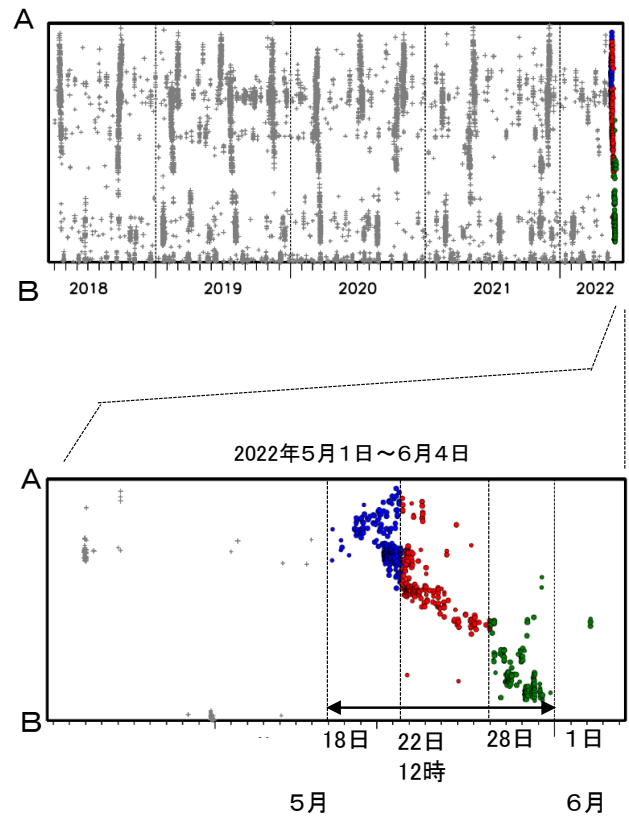
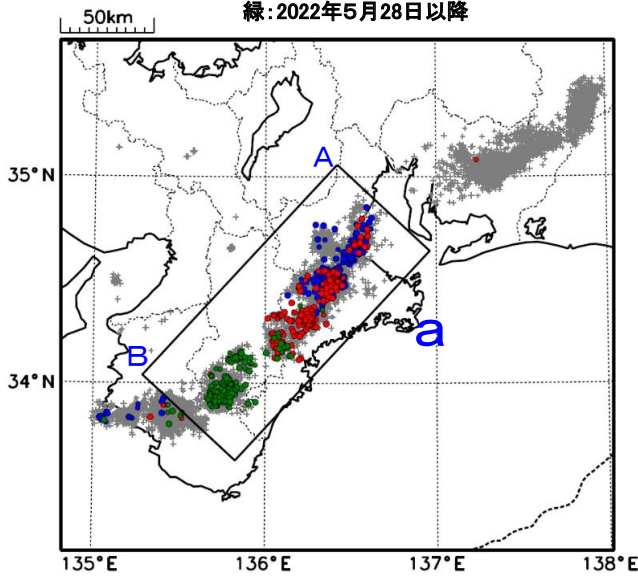
# 紀伊半島北部から紀伊半島中部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

5月18日から31日にかけて、紀伊半島北部から紀伊半島中部で深部低周波地震(微動)を観測した。深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

## 深部低周波地震(微動)活動

震央分布図(2018年4月1日~2022年6月4日、  
深さ0~60km、Mすべて)  
灰:2018年4月1日~2022年5月17日、  
青:2022年5月18日~5月22日12時  
赤:2022年5月22日12時~5月27日  
緑:2022年5月28日以降

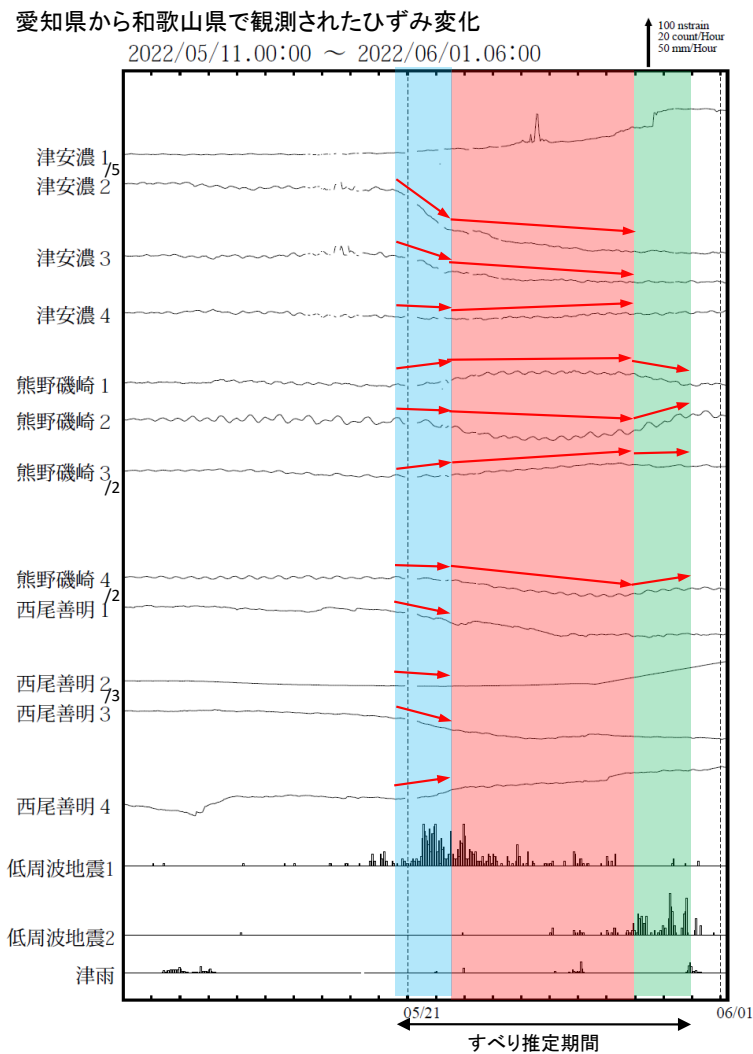
領域a内の時空間分布図(A-B投影)



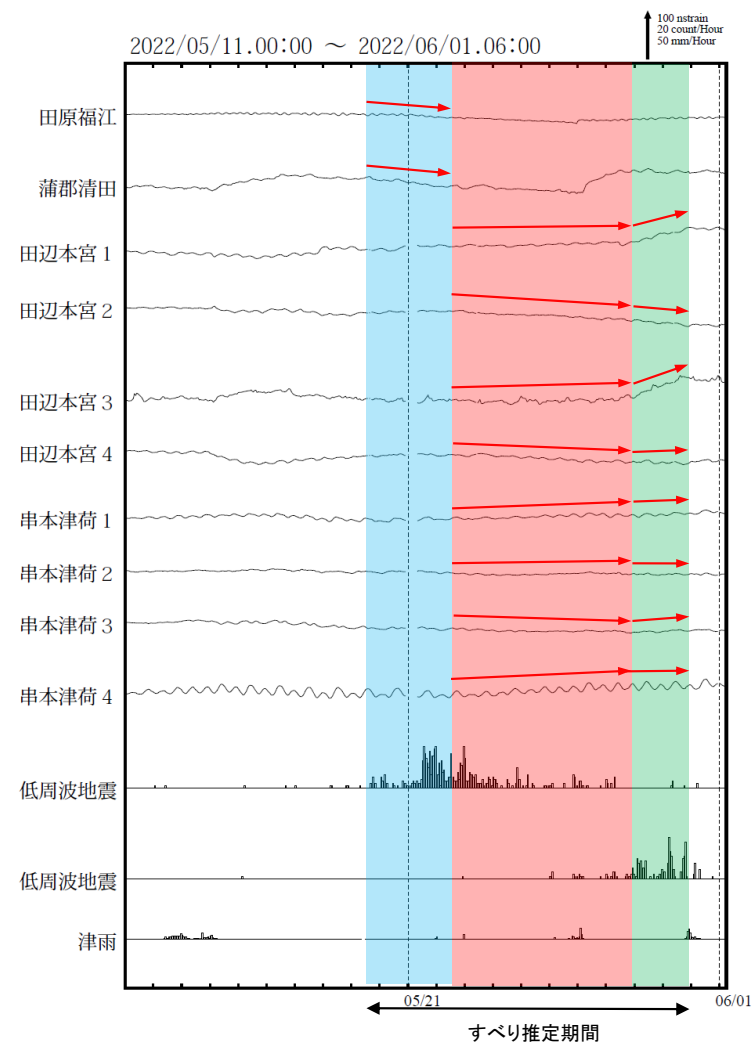
第 5 図 (a) 紀伊半島北部から紀伊半島中部の深部低周波地震活動とひずみ変化、及び推定されるゆっくりすべり領域。

Fig. 5(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in northern to central part of Kii Peninsula and strain changes, and the estimated slow slip region.

## 紀伊半島北部から中部で観測した短期的ゆっくりすべり(5月20日～30日)



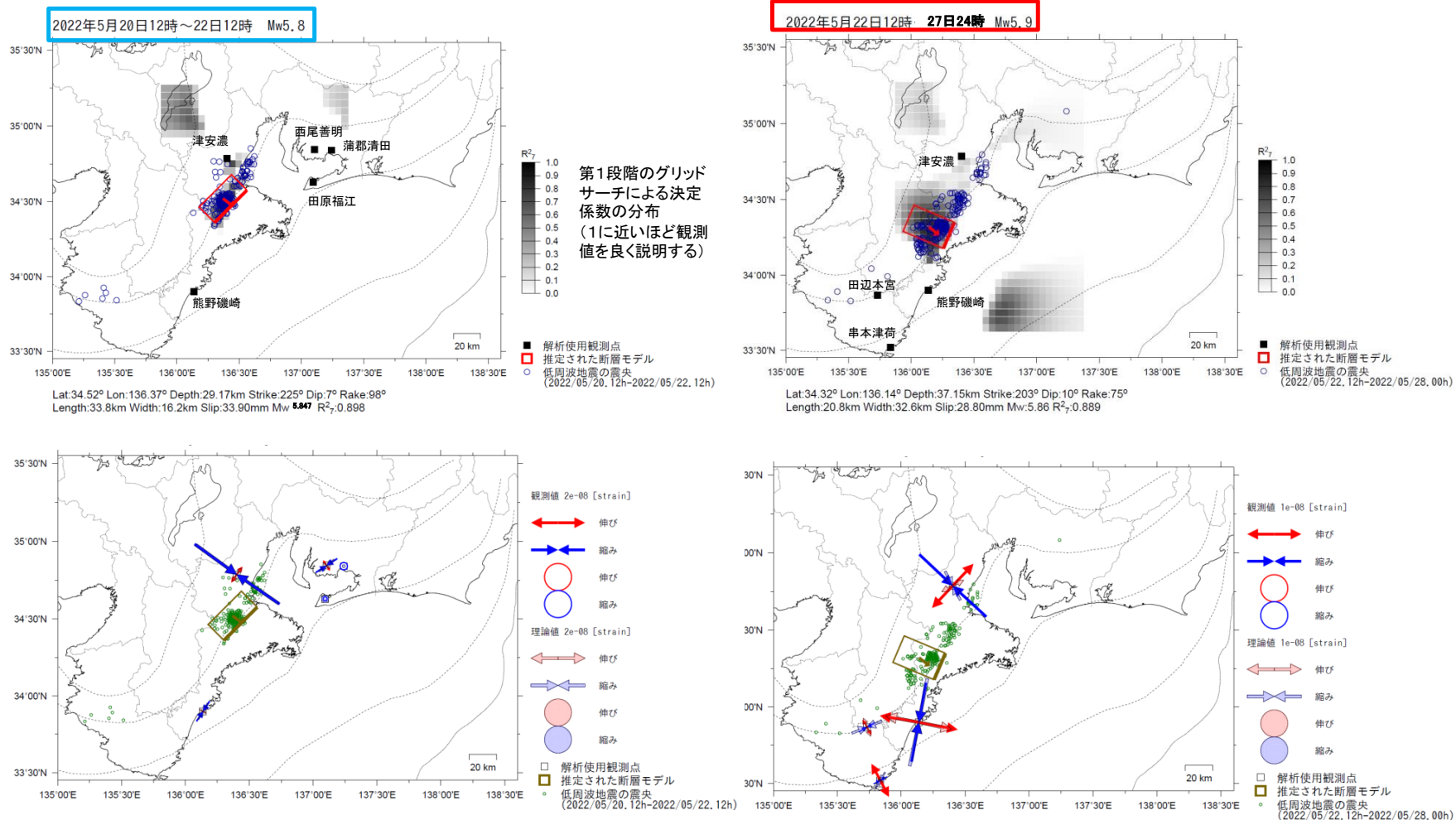
津安濃、熊野磯崎、西尾善明、田辺本宮及び串本津荷は産業技術総合研究所のひずみ計である。



第 5 図 (b) つづき.  
Fig. 5 (b) Continued.

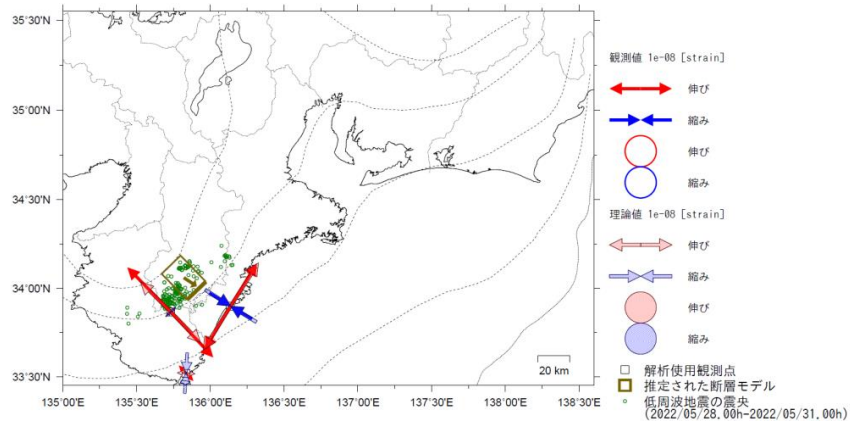
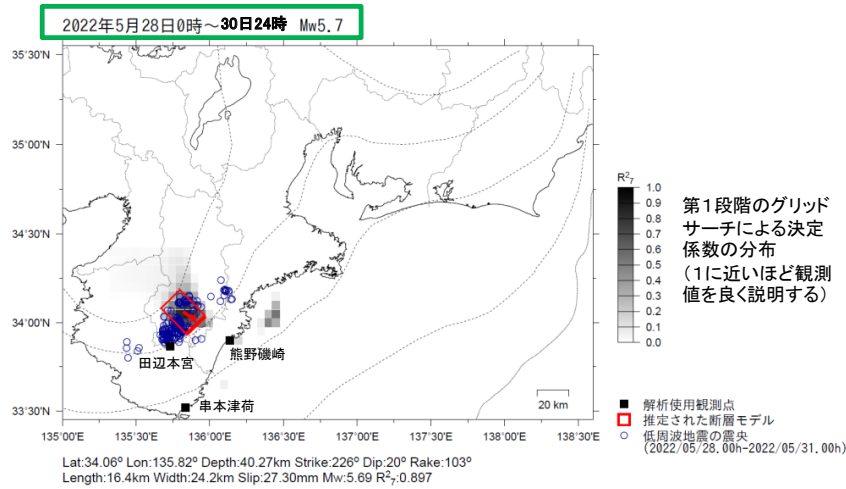


# 紀伊半島北部から中部で観測した短期的ゆっくりすべり(5月20日～30日)



第5図(b) つづき.  
Fig. 5 (b) Continued.

# 紀伊半島北部から中部で観測した短期的ゆっくりすべり(5月20日~30日)



前図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

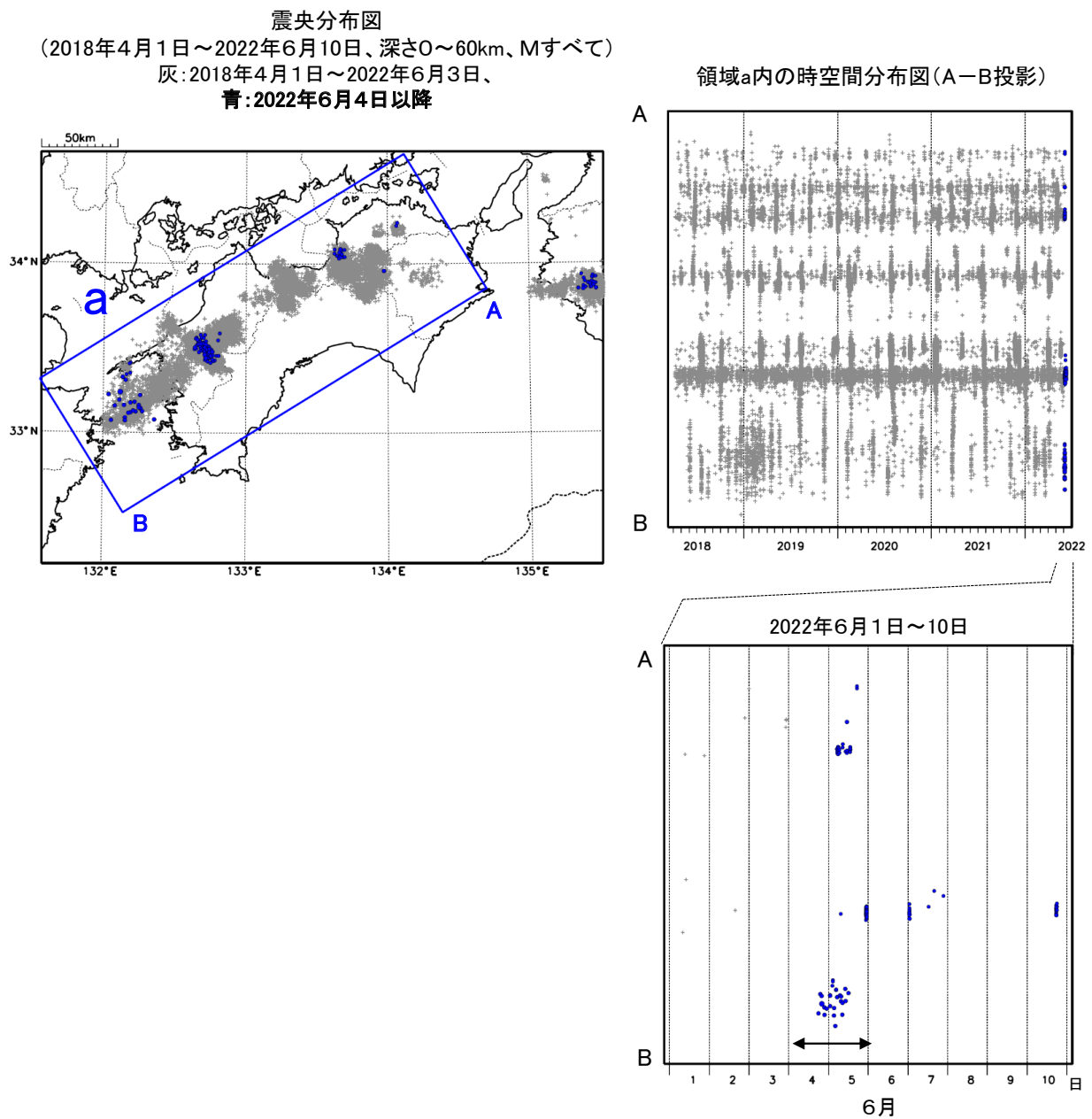
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第5図(b) つづき.  
 Fig. 5 (b) Continued.

## 四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

6月4日から5日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

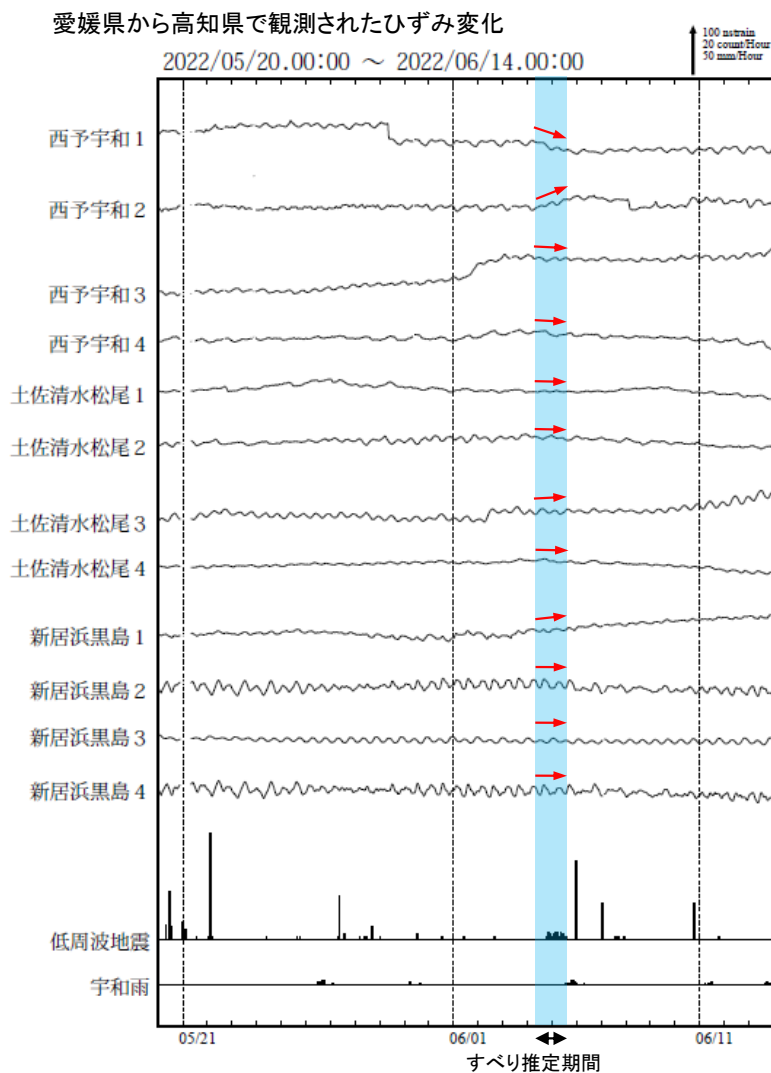
### 深部低周波地震(微動)活動



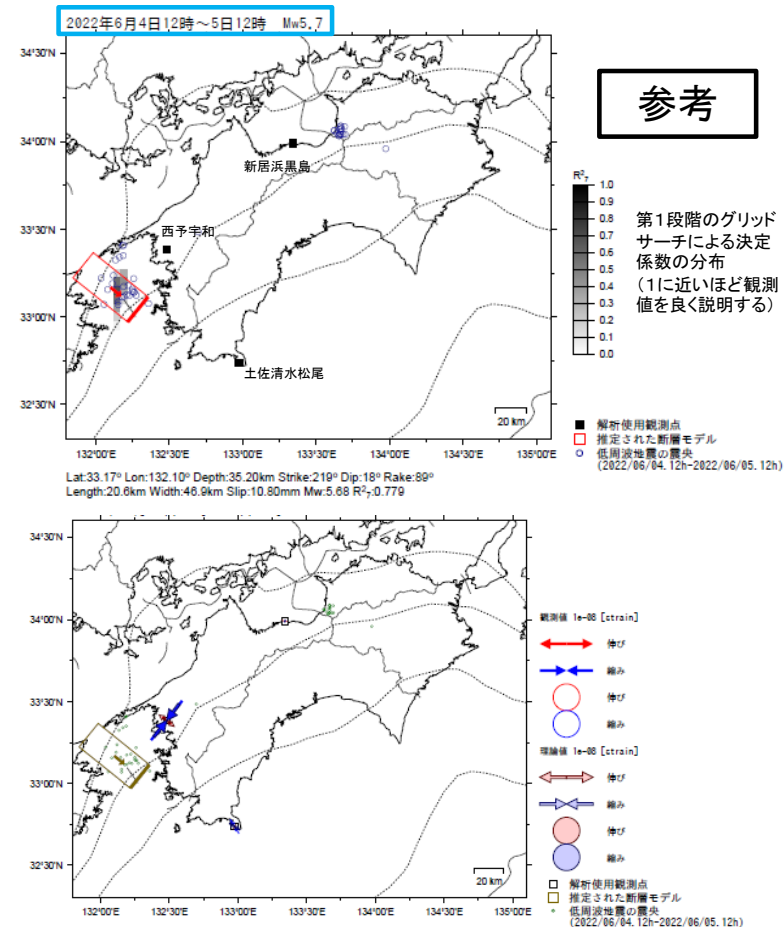
第 6 図 (a) 四国西部の深部低周波地震活動とひずみ変化，及び推定されるゆっくりすべり領域。

Fig. 6(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

## 四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(6月4日～5日)



西予宇和、土佐清水松尾及び新居浜黒島は産業技術総合研究所のひずみ計である。



左図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

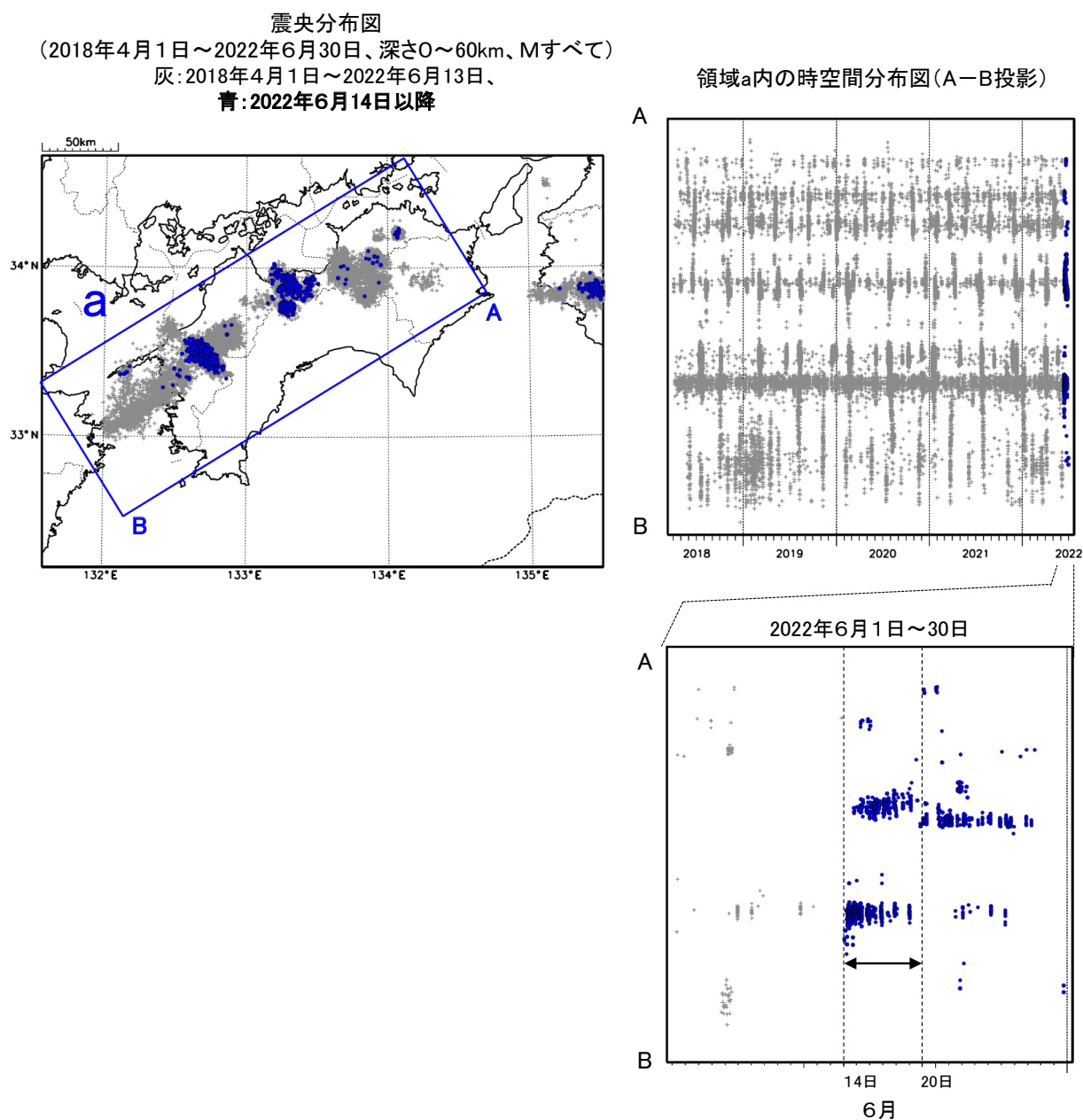
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第 6 図 (b) つづき.  
Fig. 6 (b) Continued.

## 四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

6月14日から19日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

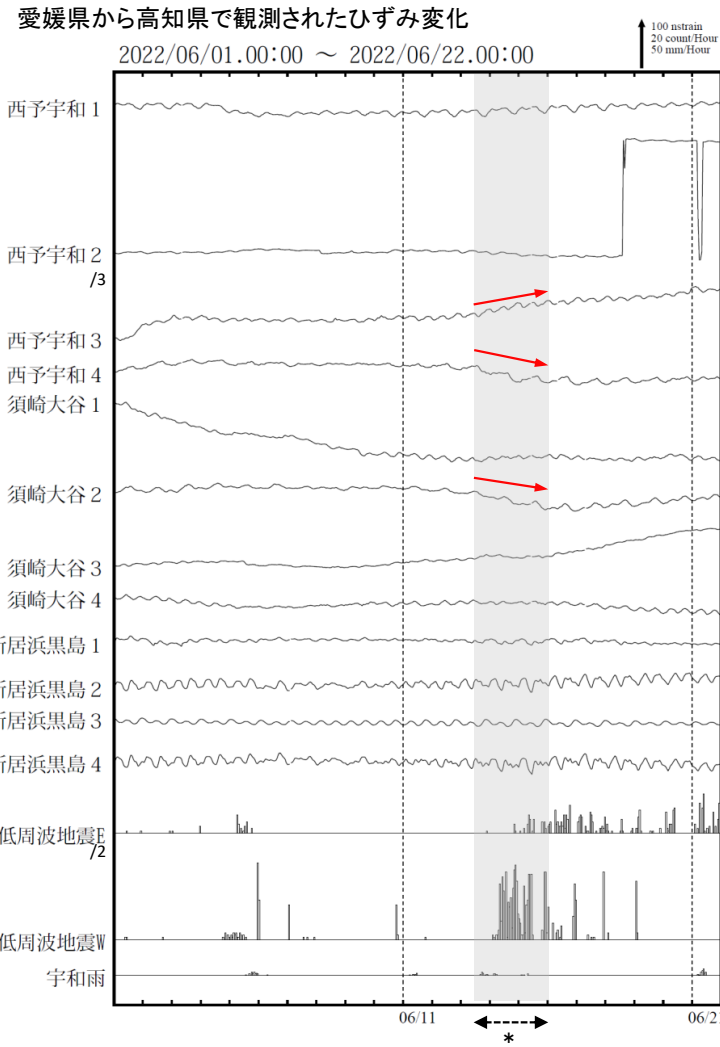
### 深部低周波地震(微動)活動



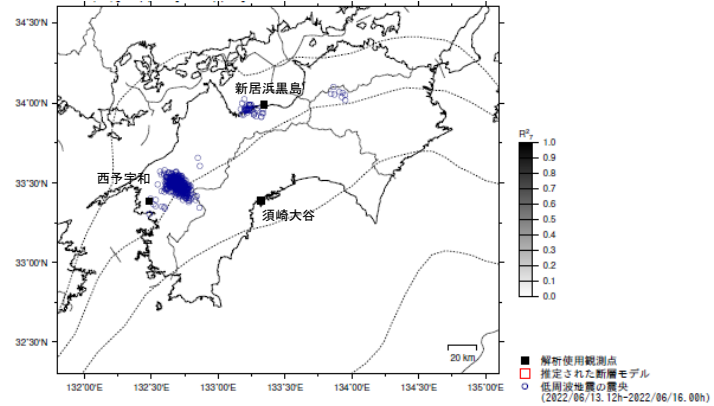
第 7 図 (a) 四国西部の深部低周波地震活動とひずみ変化，及び推定されるゆっくりすべり領域。

Fig. 7(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

# 四国で観測したひずみ変化(6月13日~15日)



西予宇和、須崎大谷及び新居浜黒島は産業技術総合研究所のひずみ計である。



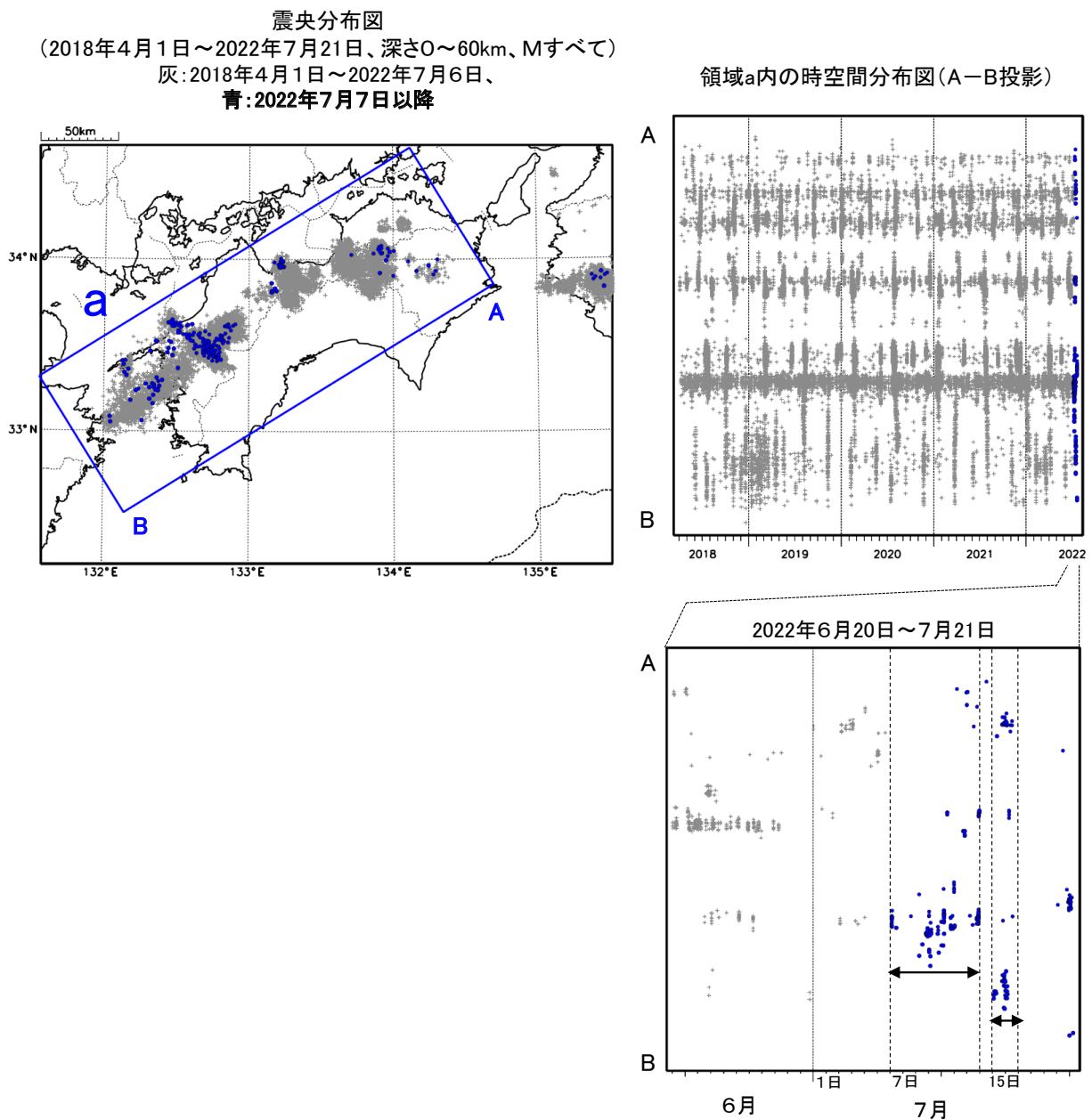
\*の期間にひずみの変化はみられるものの、断層モデルを精度よく求めることができない。

第7図 (b) つづき.  
Fig. 7 (b) Continued.

## 四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

7月7日から13日及び15日から16日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

### 深部低周波地震(微動)活動

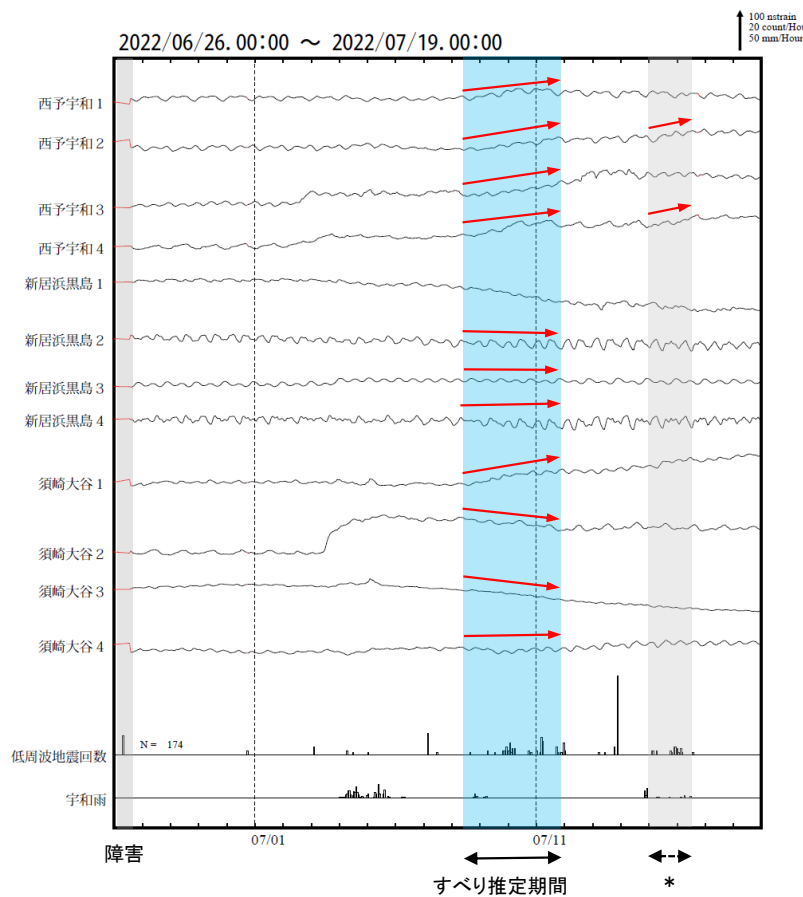


第 8 図 (a) 四国西部の深部低周波地震活動とひずみ変化。

Fig. 8(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western part of Shikoku region and strain changes.

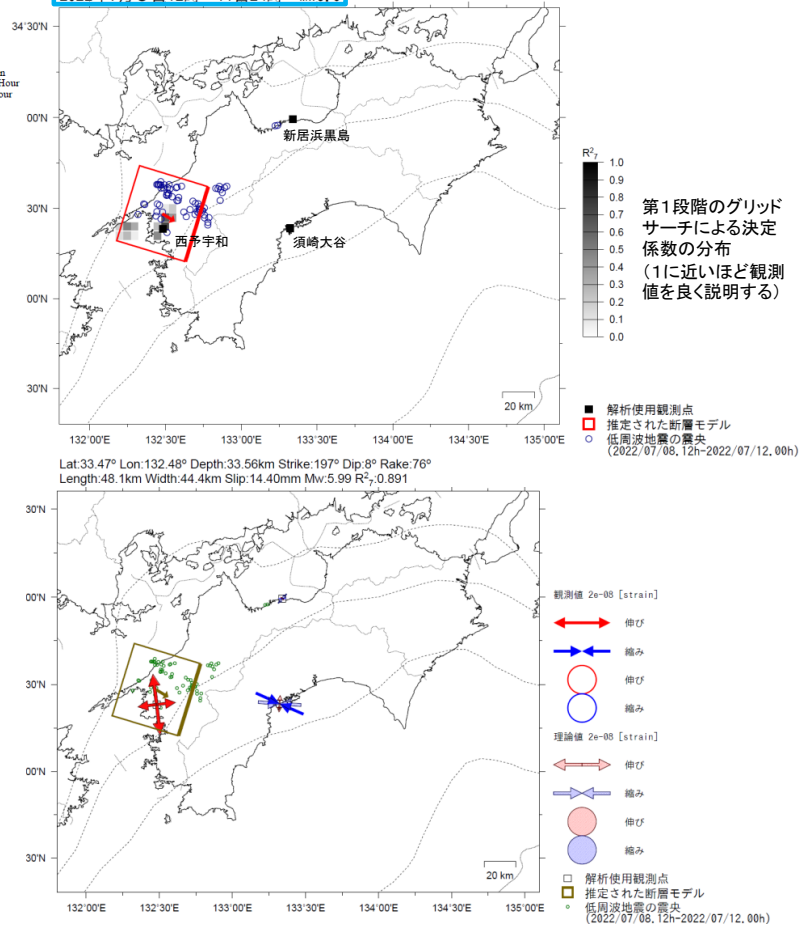
# 四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(7月8日~11日)

愛媛県から高知県で観測されたひずみ変化



西予宇和、新居浜黒島及び須崎大谷は産業技術総合研究所のひずみ計である。  
\*の期間にひずみの変化はみられるものの、断層モデルを精度よく求めることができない。

2022年7月8日12時~11日24時 Mw6.0



左図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

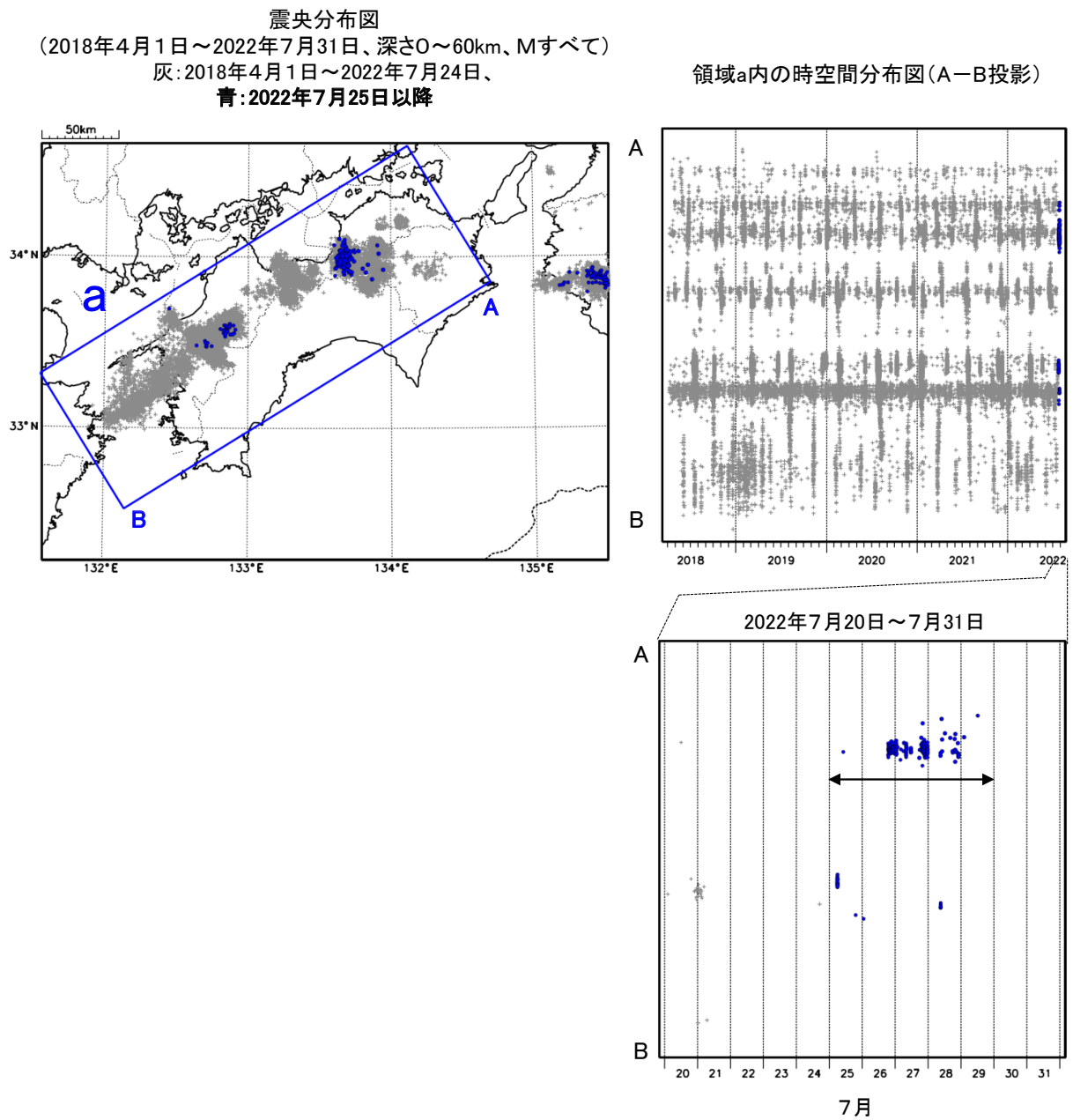
第 8 図 (b) つづき.  
Fig. 8 (b) Continued.



## 四国東部の深部低周波地震(微動)活動

7月25日から29日にかけて、四国東部で深部低周波地震(微動)を観測した。

### 深部低周波地震(微動)活動



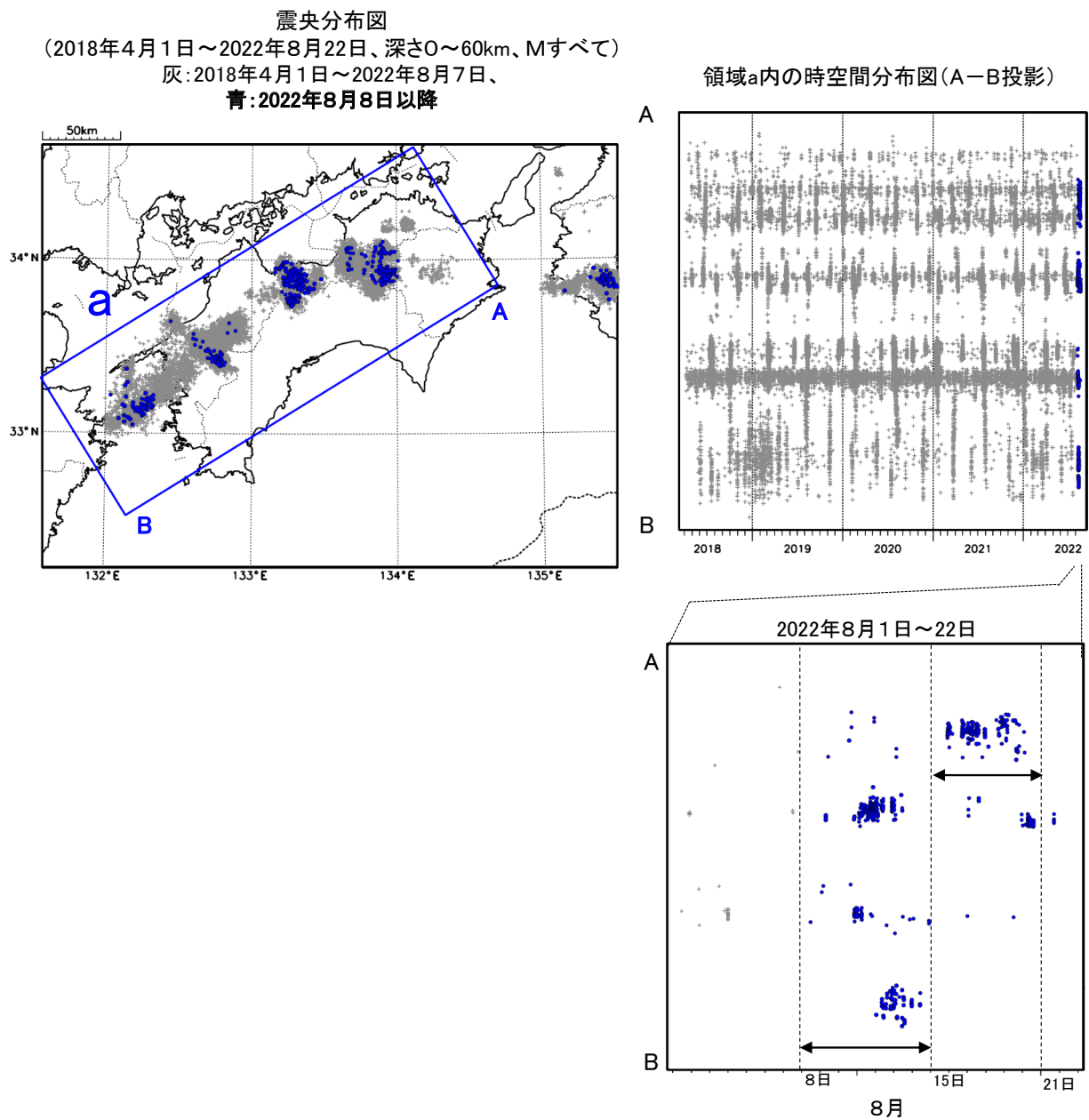
第 9 図 四国東部の深部低周波地震活動.

Fig. 9 Activity of deep low-frequency earthquakes in eastern part of Shikoku region

## 四国東部及び四国西部の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

8月8日から14日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。  
 また、8月15日から20日にかけて、四国東部で深部低周波地震(微動)を観測した。

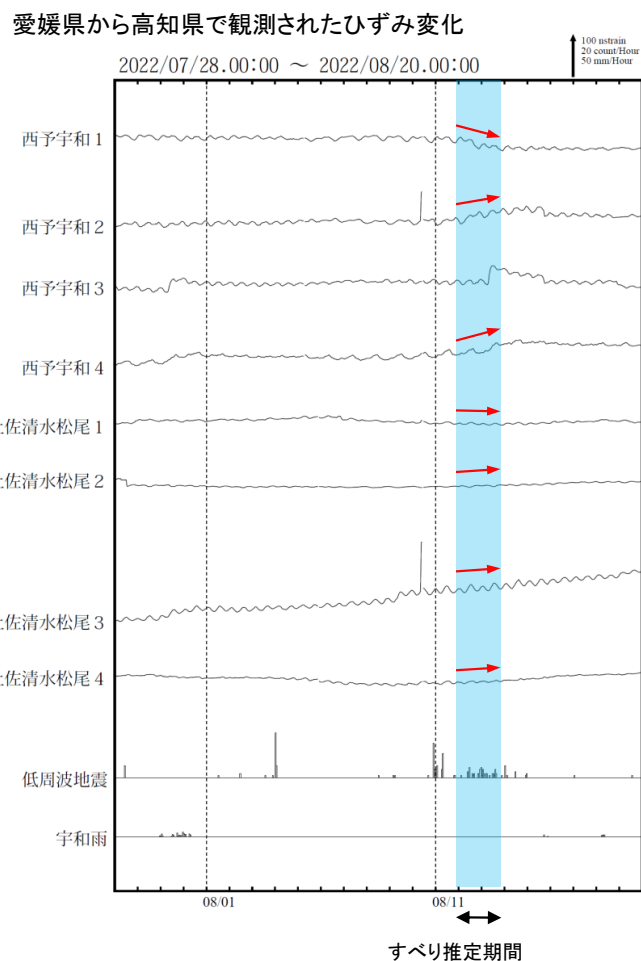
### 深部低周波地震(微動)活動



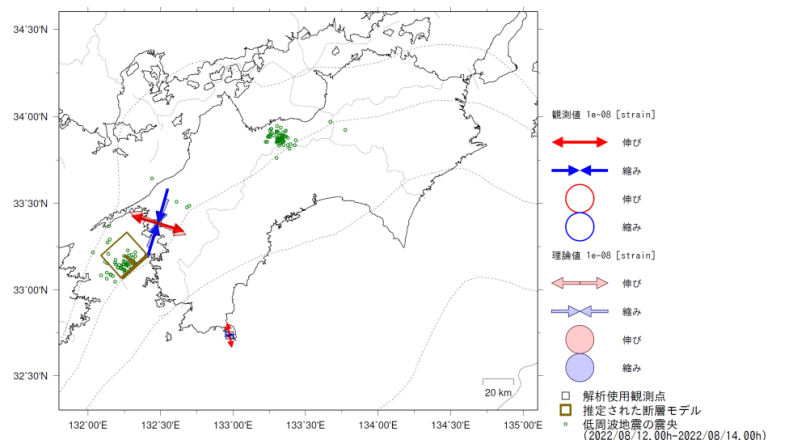
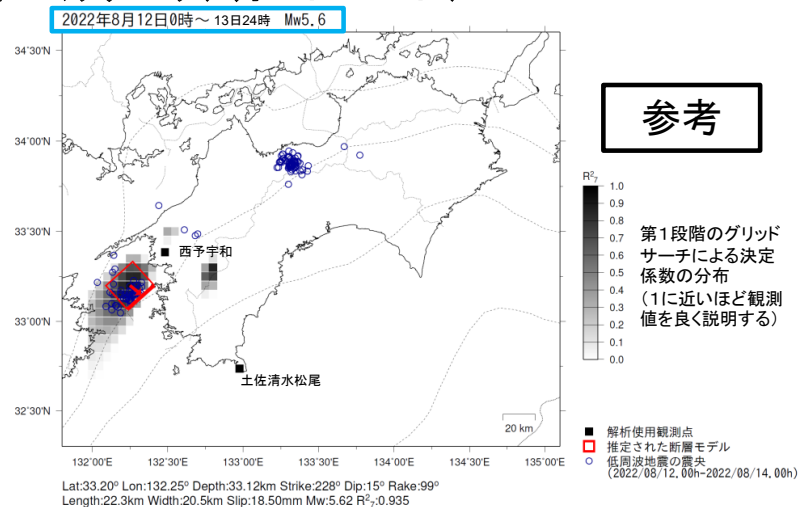
第 10 図 (a) 四国東部及び四国西部の深部低周波地震活動とひずみ変化、及び推定されるゆっくりすべり領域。

Fig. 10(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in eastern and western part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

# 四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(8月12日～13日)



西予宇和及び土佐清水松尾は産業技術総合研究所のひずみ計である。



左図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

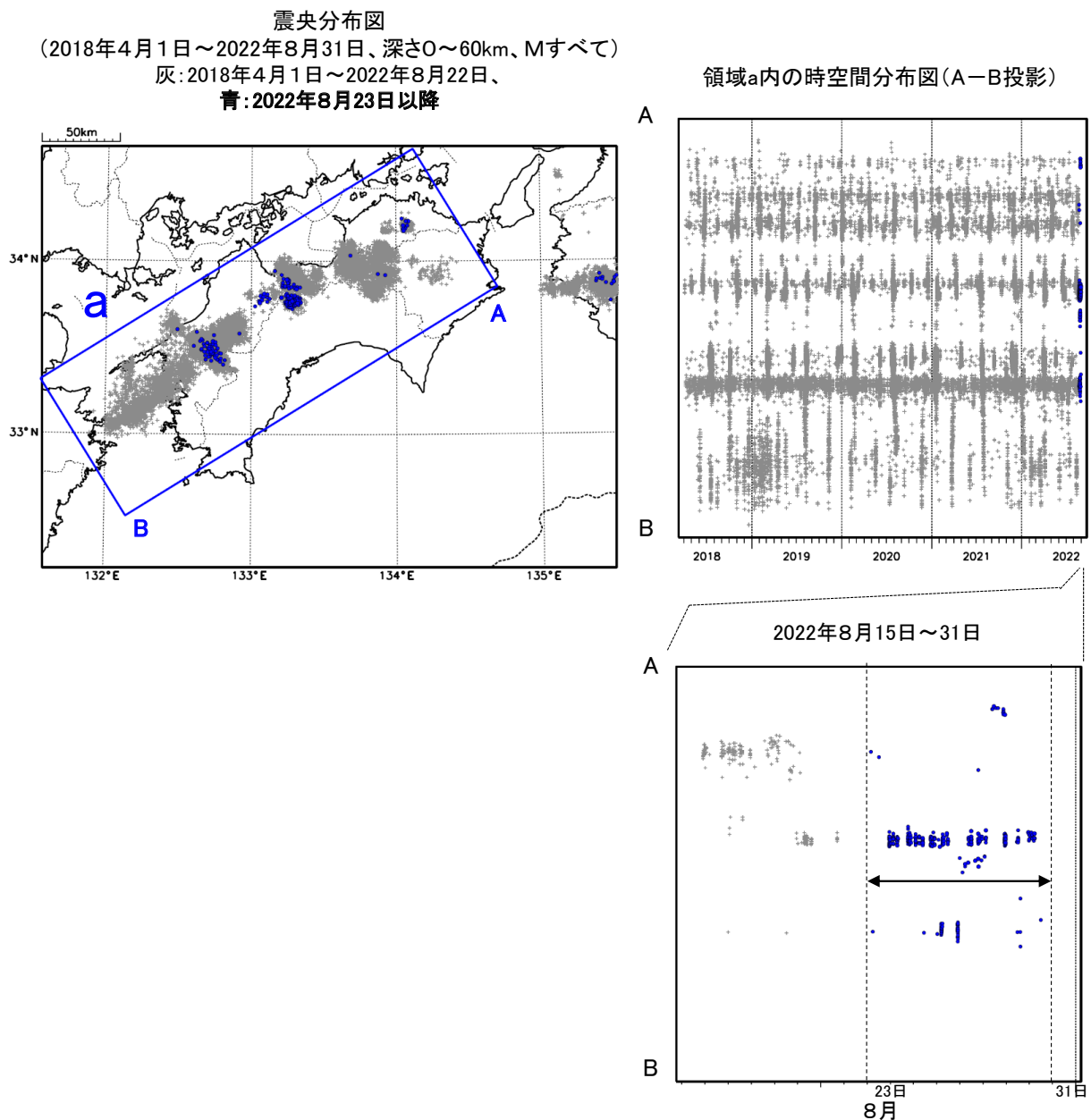
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第10図(b) つづき。  
Fig. 10(b) Continued.

## 四国中部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

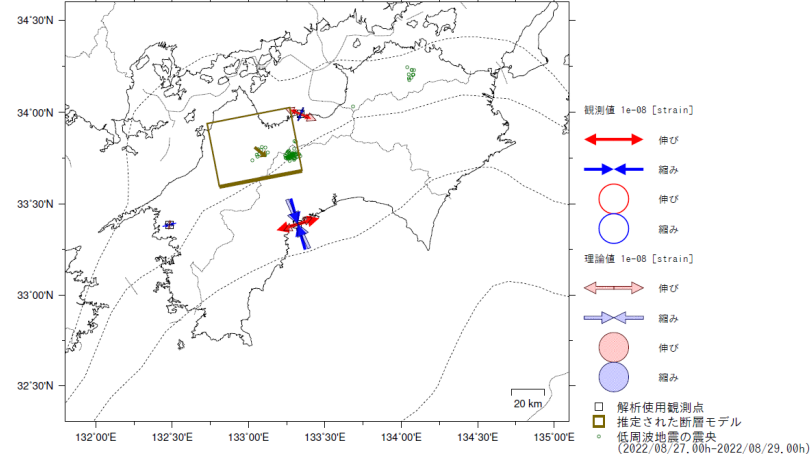
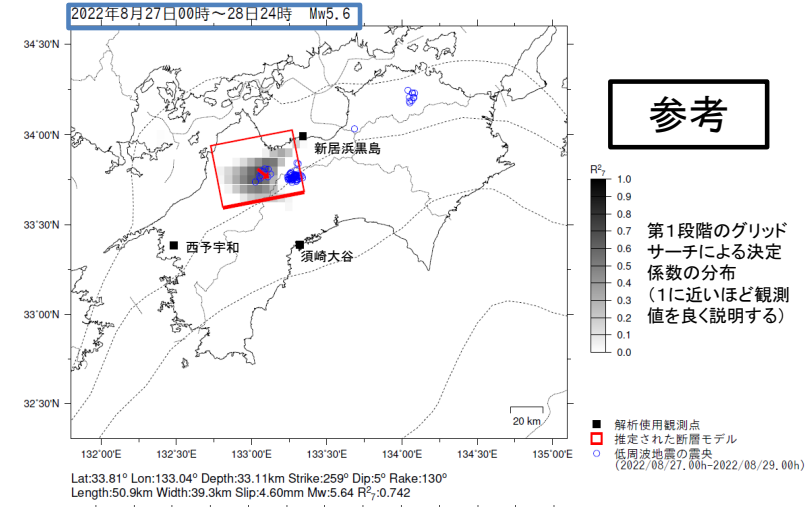
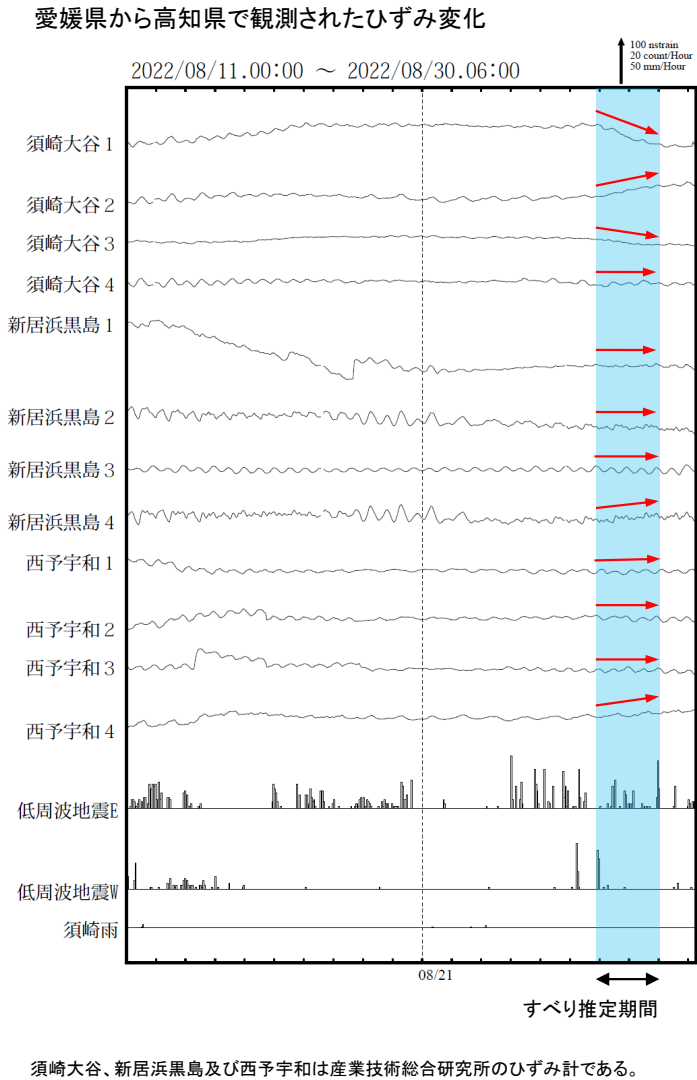
8月23日から30日にかけて、四国中部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

### 深部低周波地震(微動)活動



第 11 図 (a) 四国中部の深部低周波地震活動とひずみ変化、及び推定されるゆっくりすべり領域。  
 Fig. 11(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in central part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

# 四国中部で観測した短期的ゆっくりすべり(8月27日~28日)



左図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

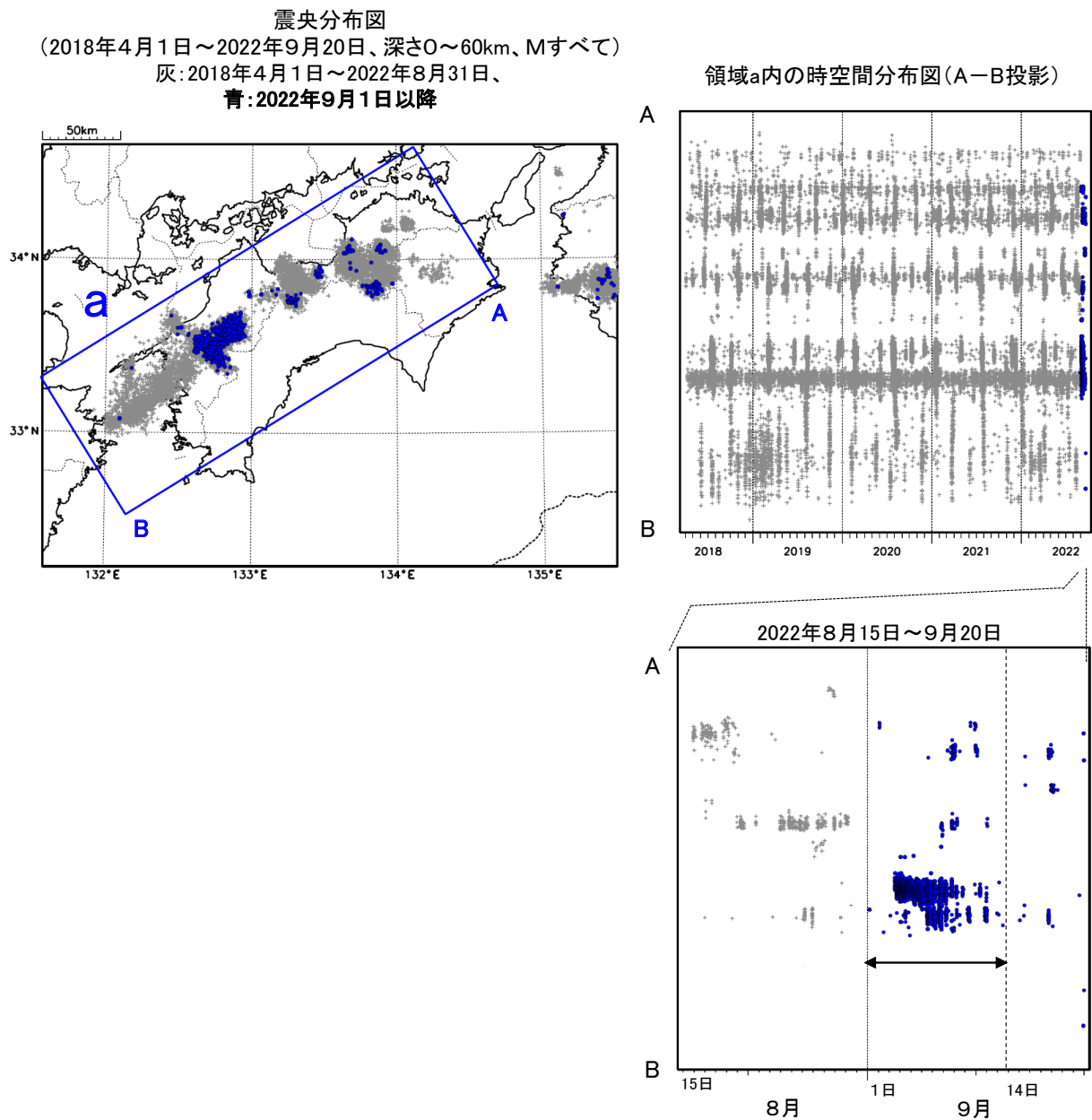
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第 11 図 (b) つづき。  
Fig. 11(b) Continued.

## 四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

9月1日から13日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

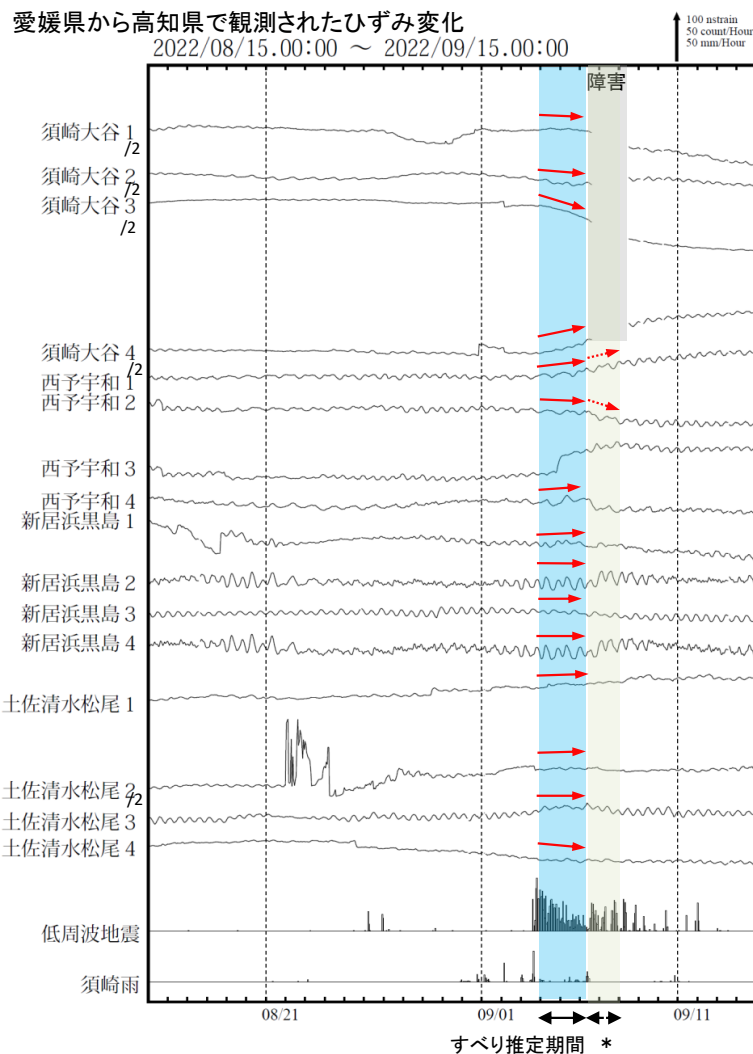
### 深部低周波地震(微動)活動



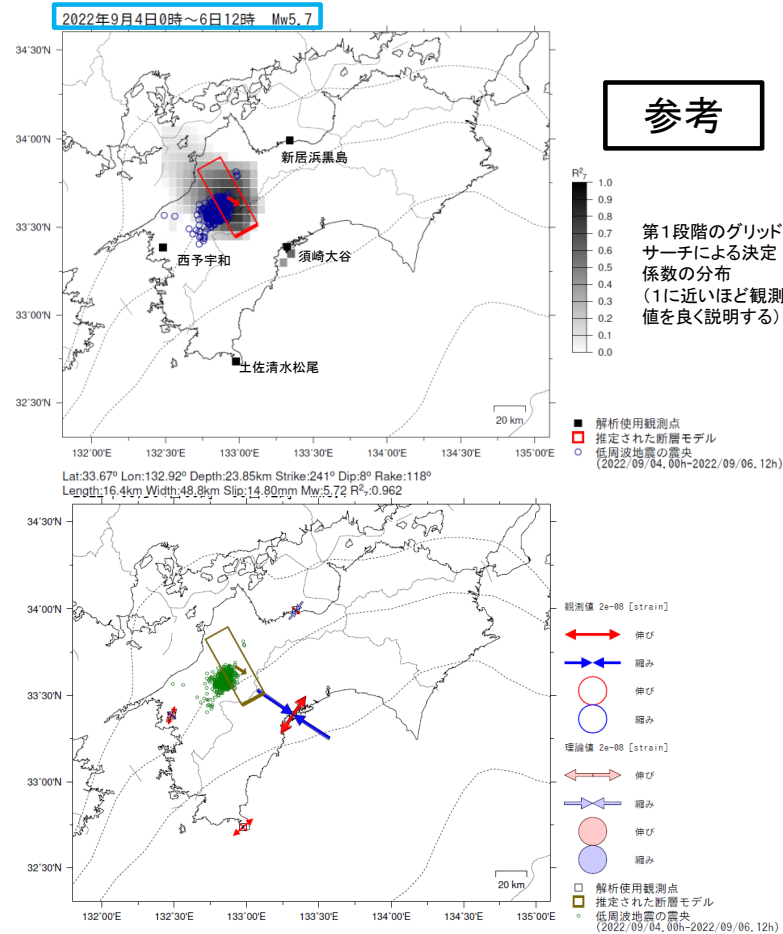
第 12 図 (a) 四国西部の深部低周波地震活動ひずみ変化, 及び推定されるゆっくりすべり領域.

Fig. 12(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

# 四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(9月4日~7日)



須崎大谷、西予宇和、新居浜黒島及び土佐清水松尾は産業技術総合研究所のひずみ計である。  
\*の期間にひずみの変化はみられるものの、断層モデルを精度よく求めることができない。



左図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

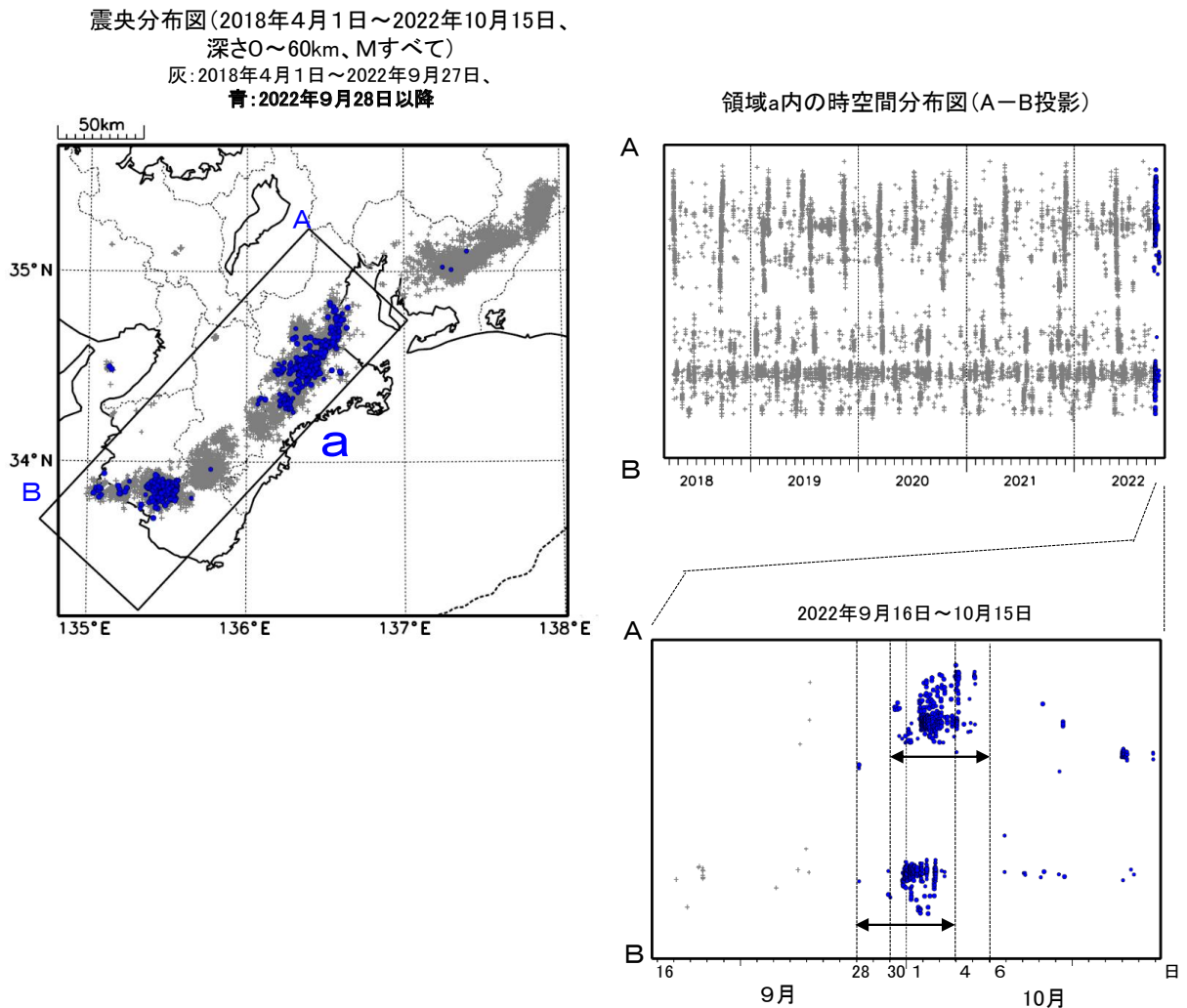
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第12図(b) つづき。  
Fig. 12(b) Continued.

## 紀伊半島北部及び紀伊半島西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

9月28日から10月3日にかけて、紀伊半島西部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 また、9月30日から10月5日にかけて、紀伊半島北部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 これらの深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

### 深部低周波地震(微動)活動



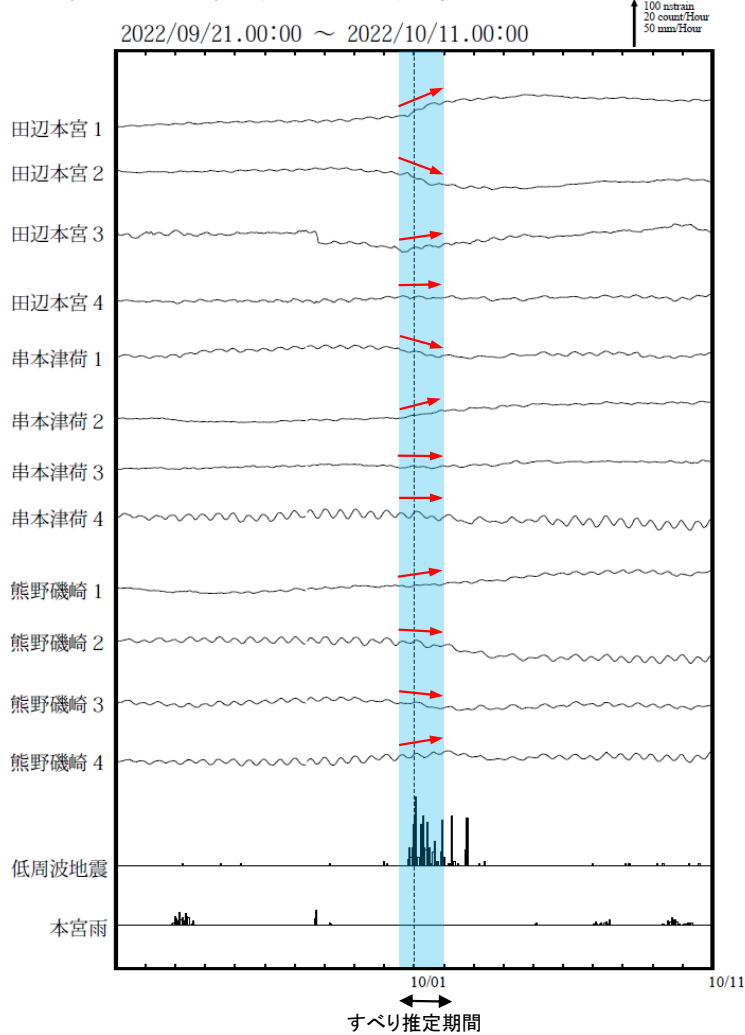
第 13 図 (a) 紀伊半島北部及び紀伊半島西部の深部低周波地震活動とひずみ変化, 及び推定されるゆっくりすべり領域.

Fig. 13(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in northern and western part of Kii Peninsula and strain changes, and the estimated slow slip region.

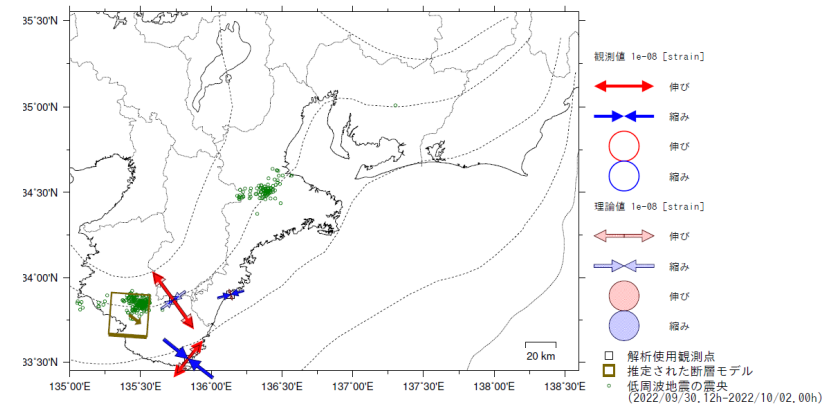
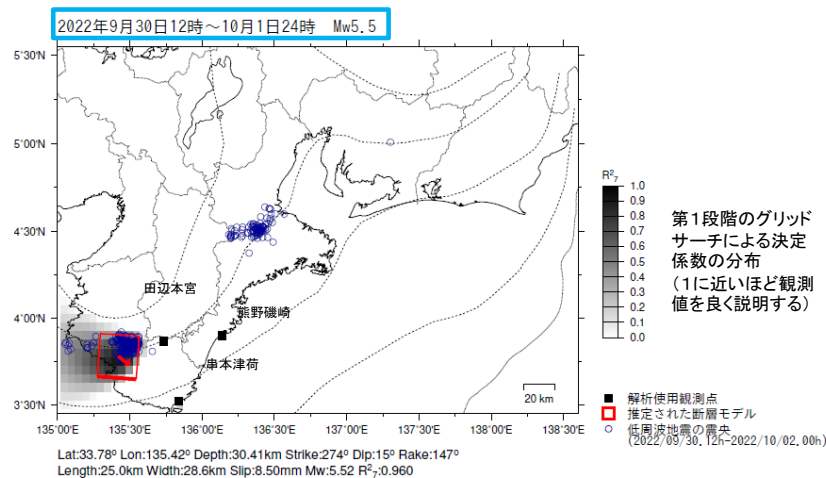


# 紀伊半島西部で観測した短期的ゆっくりすべり(9月30日～10月1日)

三重県から和歌山県で観測されたひずみ変化



田辺本宮、串本津荷及び熊野磯崎は産業技術総合研究所のひずみ計である。

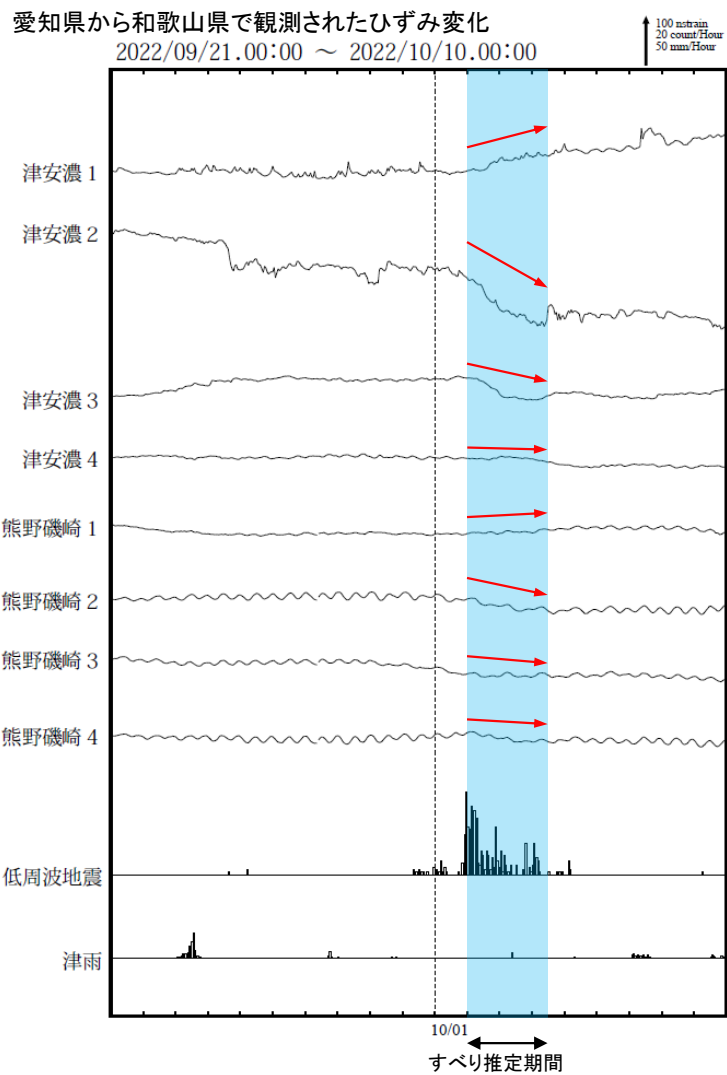


左図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

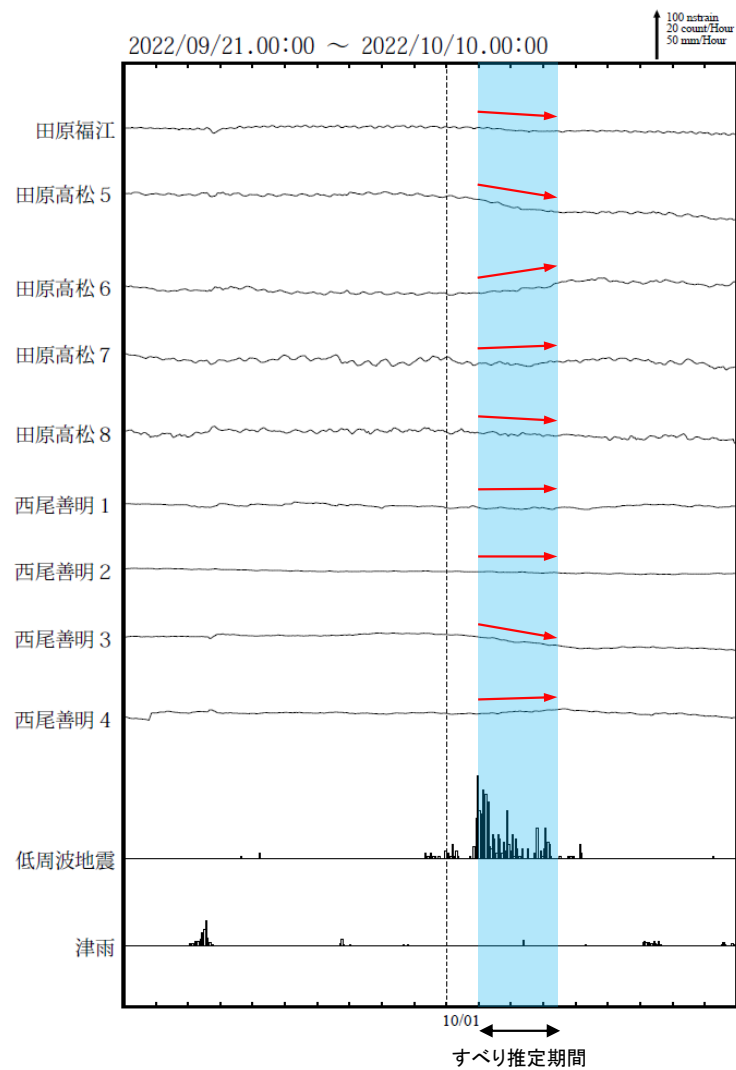
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第 13 図 (b) つづき.  
 Fig. 13(b) Continued.

### 紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり(10月2日～4日)

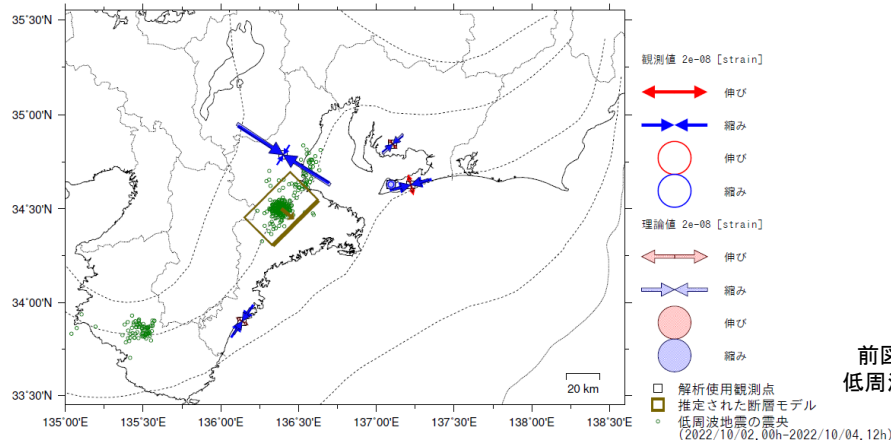
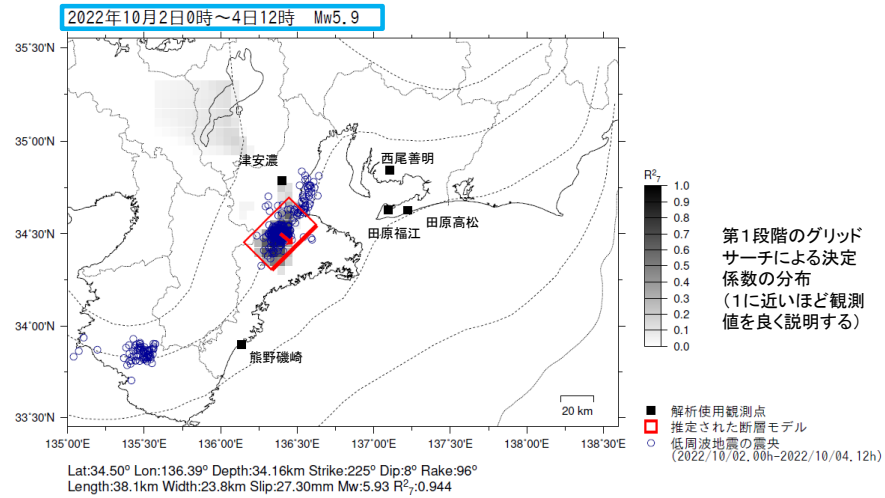


津安濃、熊野磯崎及び西尾善明は産業技術総合研究所のひずみ計である。



第 13 図 (c) つづき.  
Fig. 13(c) Continued.

# 紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり(10月2日～4日)



断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか、2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

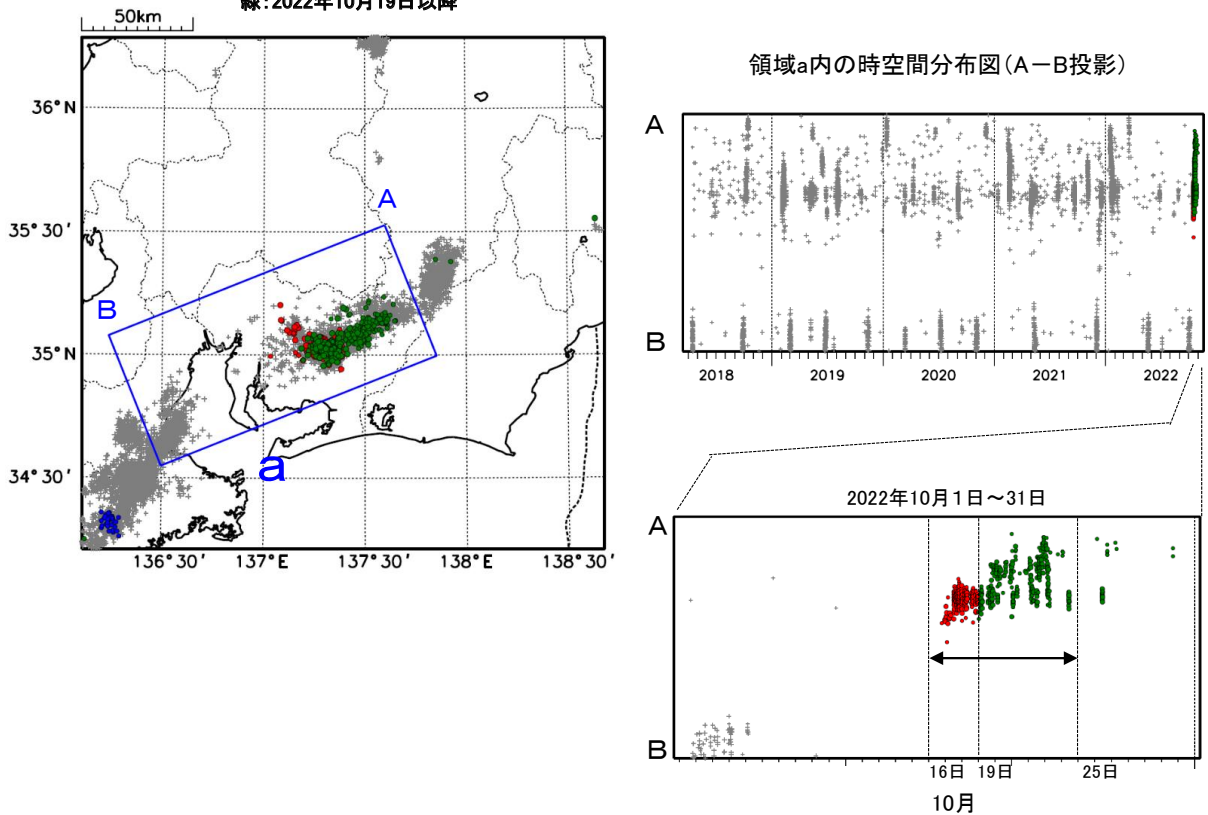
第13図(c) つづき.  
 Fig. 13(c) Continued.

## 東海の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

10月16日から24日にかけて、東海で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

### 深部低周波地震(微動)活動

震央分布図(2018年4月1日~2022年10月31日、  
 深さ0~60km、Mすべて)  
 灰: 2018年4月1日~2022年10月10日、  
 青: 2022年10月11日~15日  
 赤: 2022年10月16日~18日  
 緑: 2022年10月19日以降

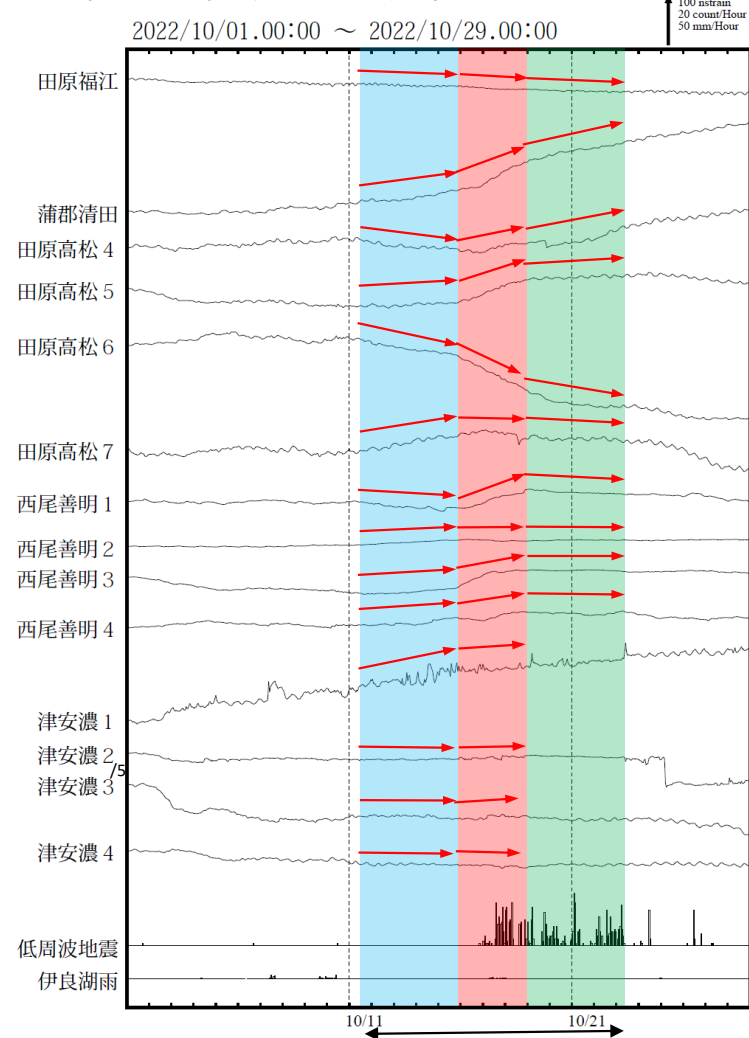


第 14 図 (a) 東海の深部低周波地震活動とひずみ変化, 及び推定されるゆっくりすべり領域.

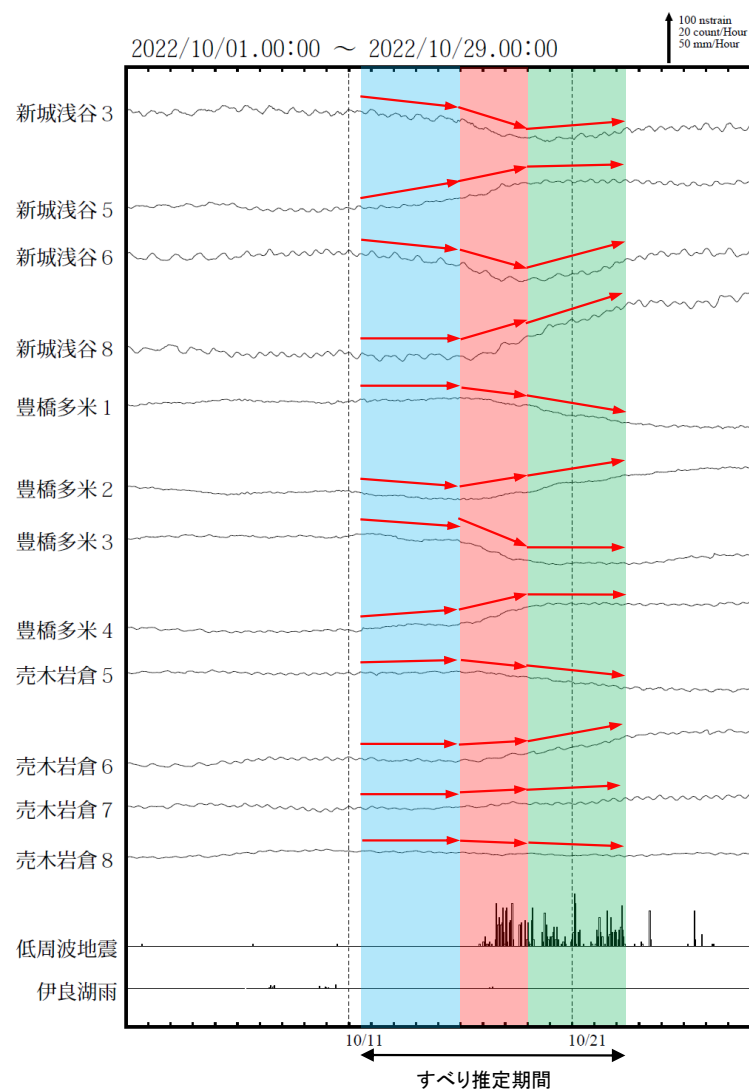
Fig. 14(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in Tokai region and strain changes, and the estimated slow slip region.

# 東海で観測した短期的ゆっくりすべり(10月11日～23日)

静岡県から三重県で観測されたひずみ変化

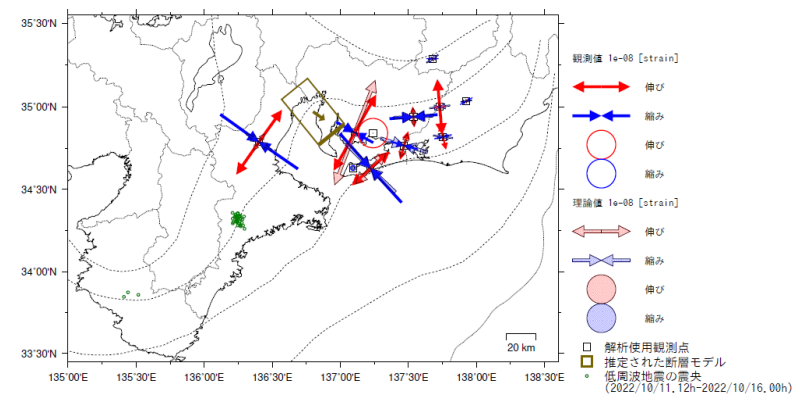
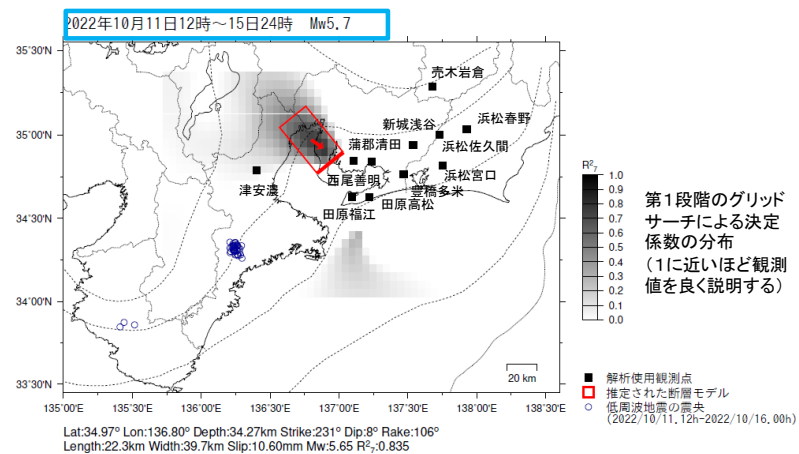
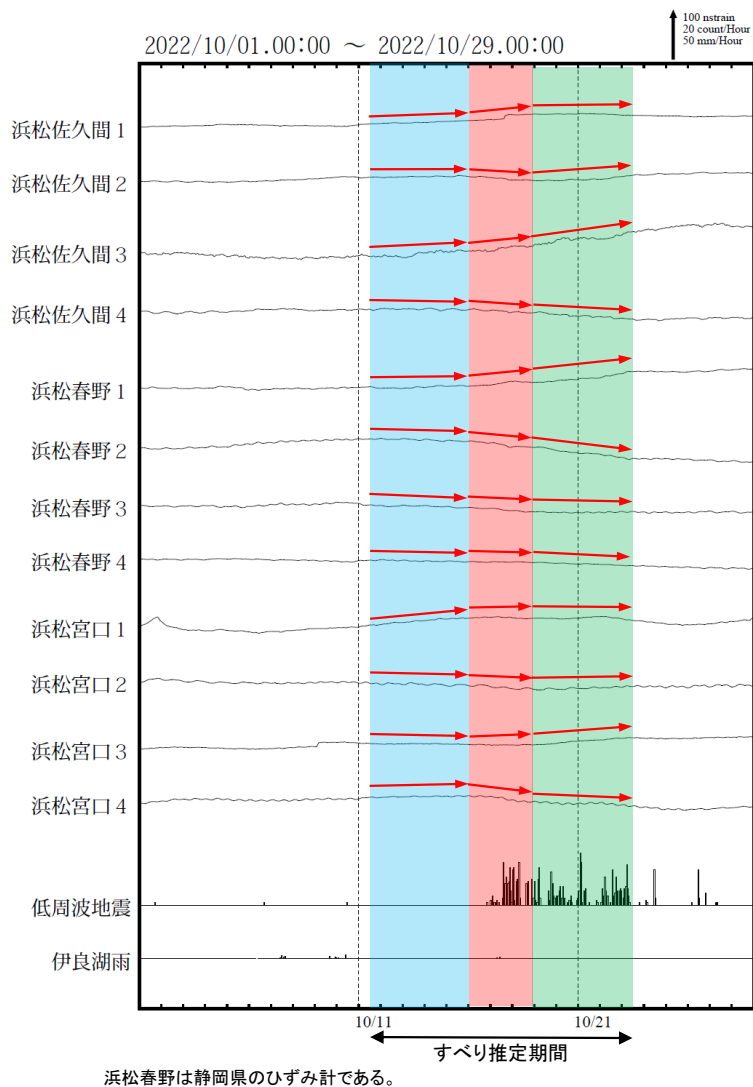


西尾善明、津安濃及び豊橋多米は産業技術総合研究所のひずみ計である。



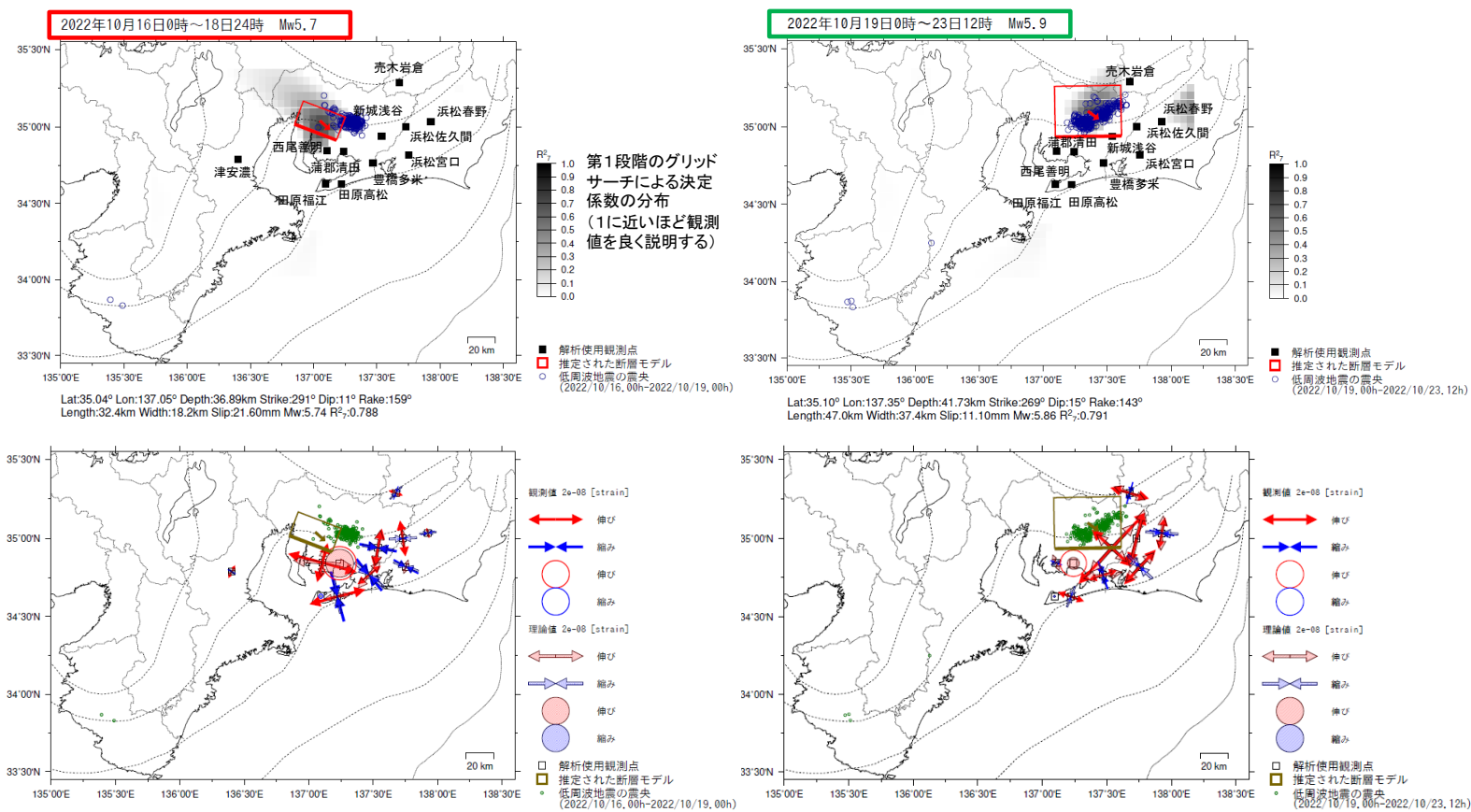
第 14 図 (b) つづき.  
Fig. 14(b) Continued.

# 東海で観測した短期的ゆっくりすべり(10月11日~23日)



第 14 図 (b) つづき.  
 Fig. 14(b) Continued.

# 東海で観測した短期的ゆっくりすべり(10月11日~23日)



前図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にするべり推定を行ったところ、図の場所にすべり域が求まった。

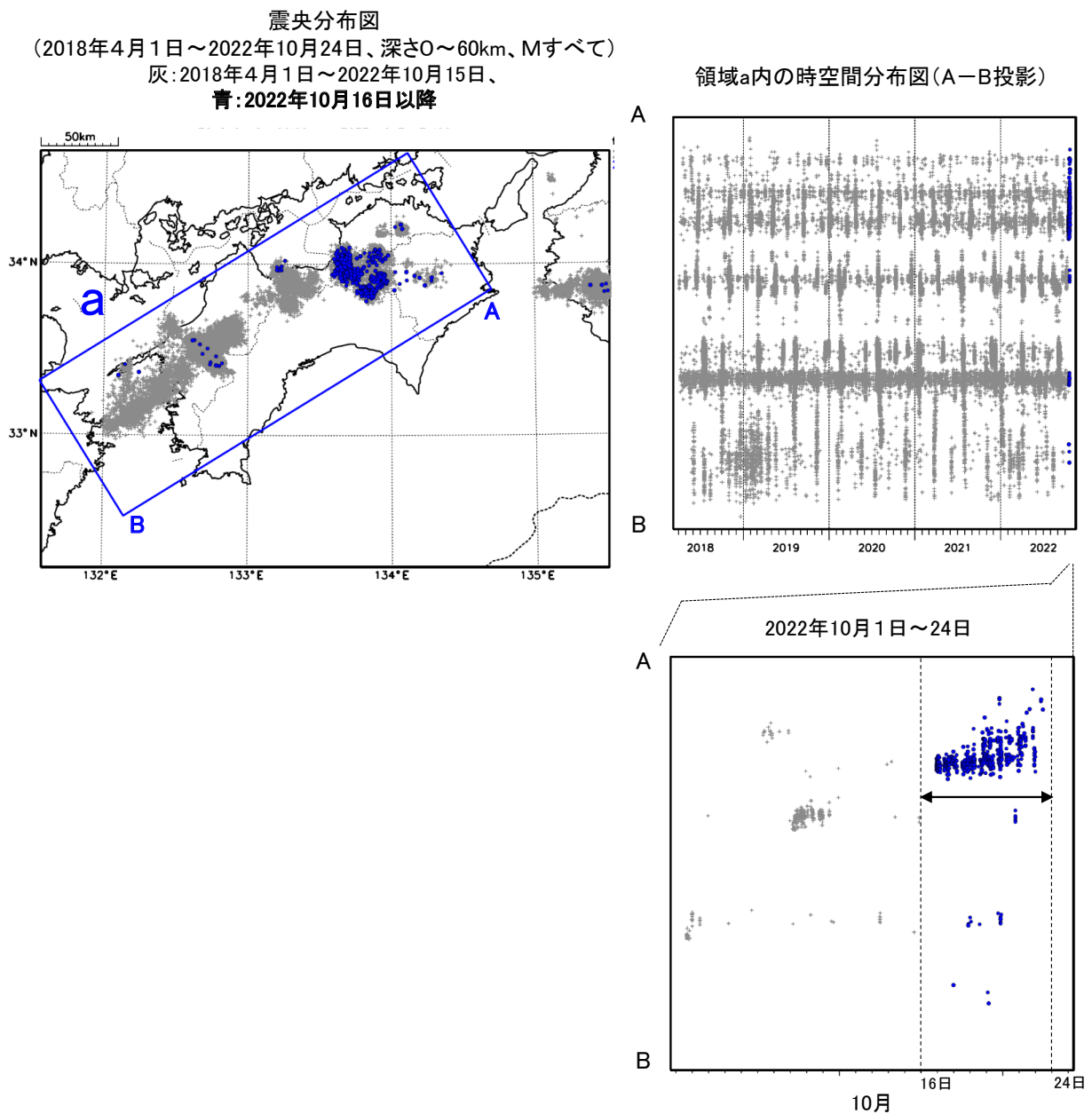
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第14図(b) つづき。  
 Fig. 14(b) Continued.

## 四国東部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

10月16日から23日にかけて、四国東部で深部低周波地震(微動)を観測した。  
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されているひずみ計で地殻変動を観測した。  
 これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

### 深部低周波地震(微動)活動

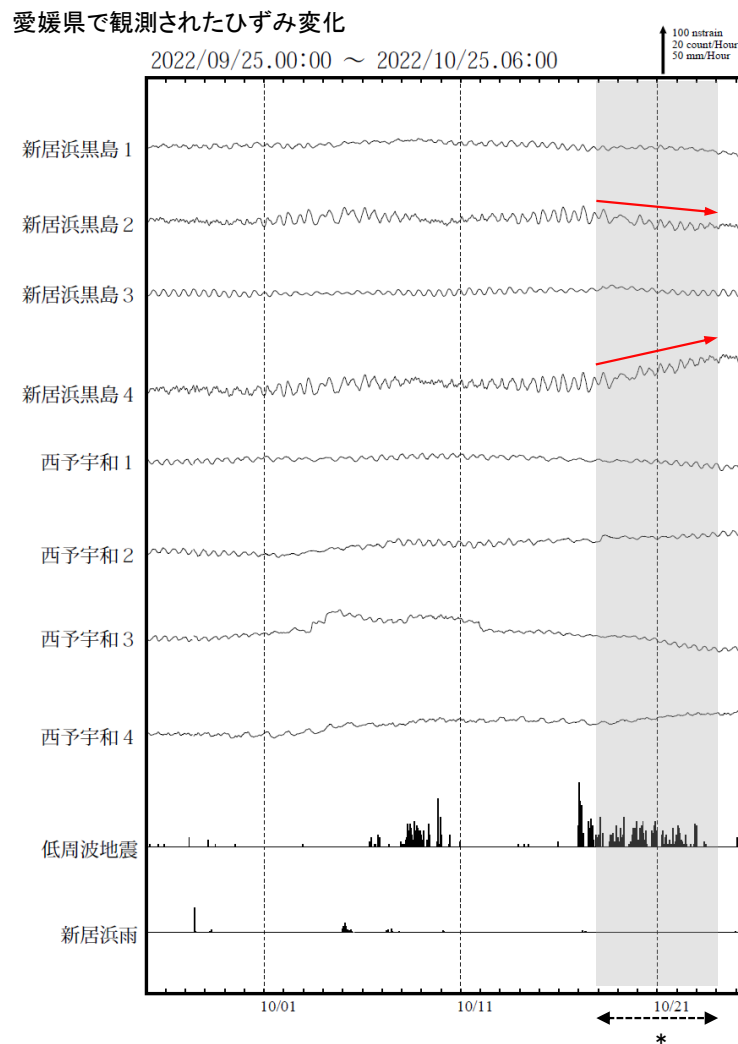


第 15 図 (a) 四国東部の深部低周波地震活動とひずみ変化.

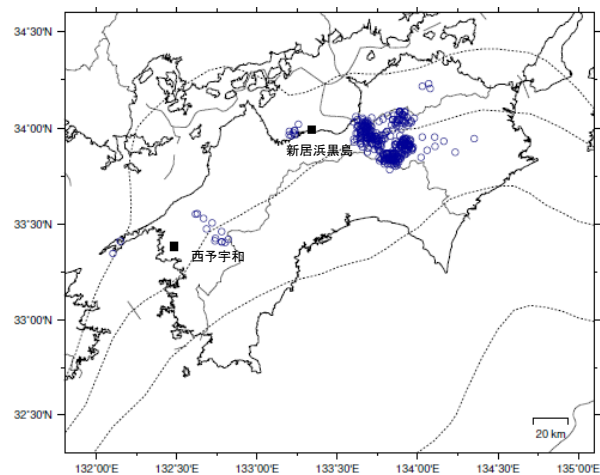
Fig. 15(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in eastern part of Shikoku region and strain changes.



# 四国で観測したひずみ変化(10月18日~22日)



新居浜黒島及び西予宇和は産業技術総合研究所のひずみ計である。



\*の期間にひずみの変化はみられるものの、断層モデルを精度よく求めることができない。

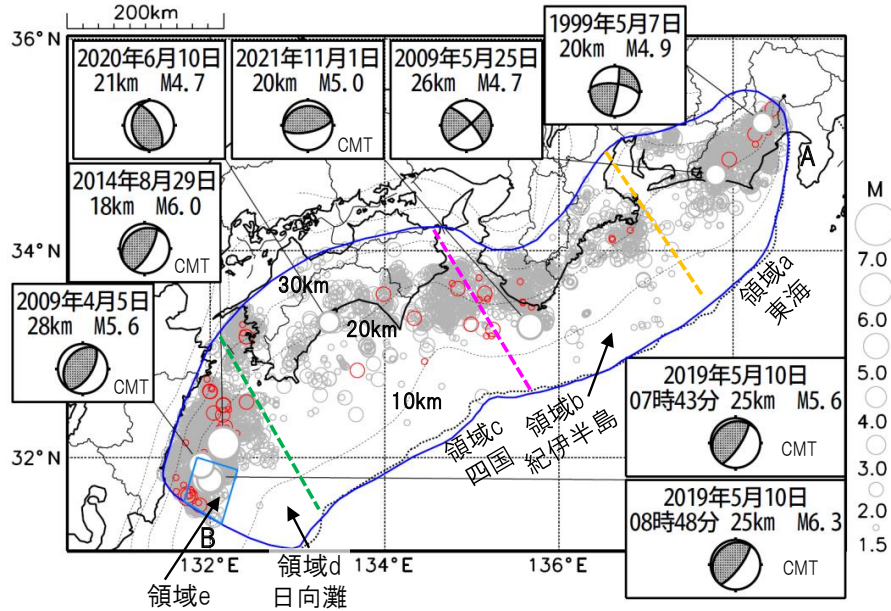
第 15 図 (b) つづき.  
Fig. 15(b) Continued.

## プレート境界とその周辺の地震活動

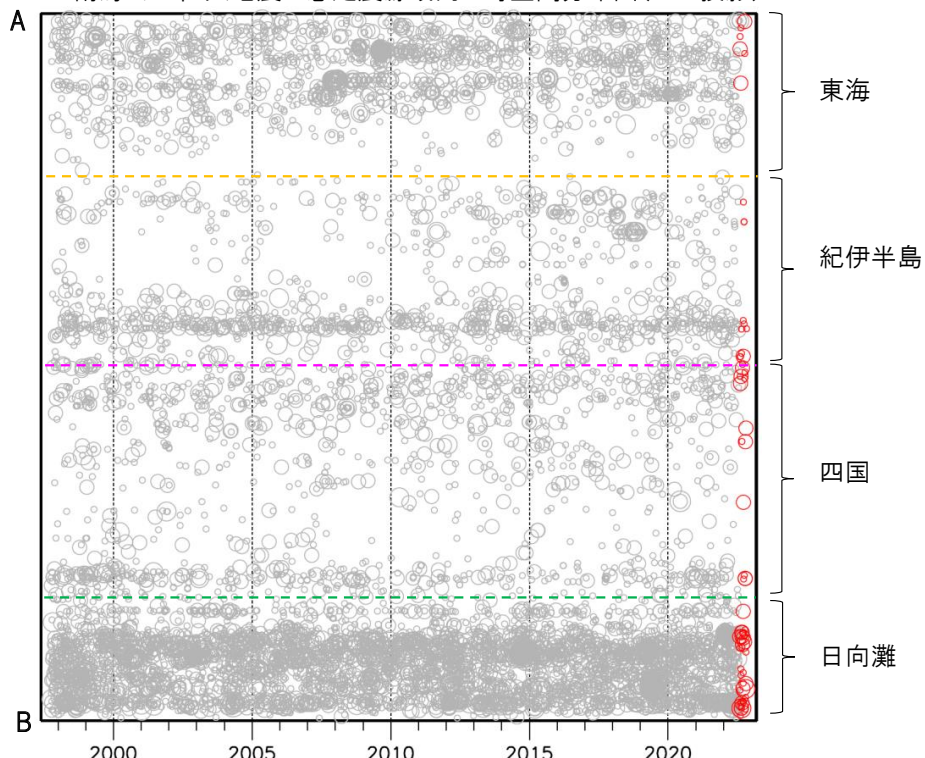
フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。  
日向灘の領域e内のみ、深さ20km~30kmの地震を追加している。

震央分布図

(1997年10月1日~2022年10月31日、 $M \geq 1.5$ 、2022年8月以降の地震を赤く表示)



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・日向灘のM5.5以上の地震、その他の領域のM4.5以上の地震に吹き出しを付している。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

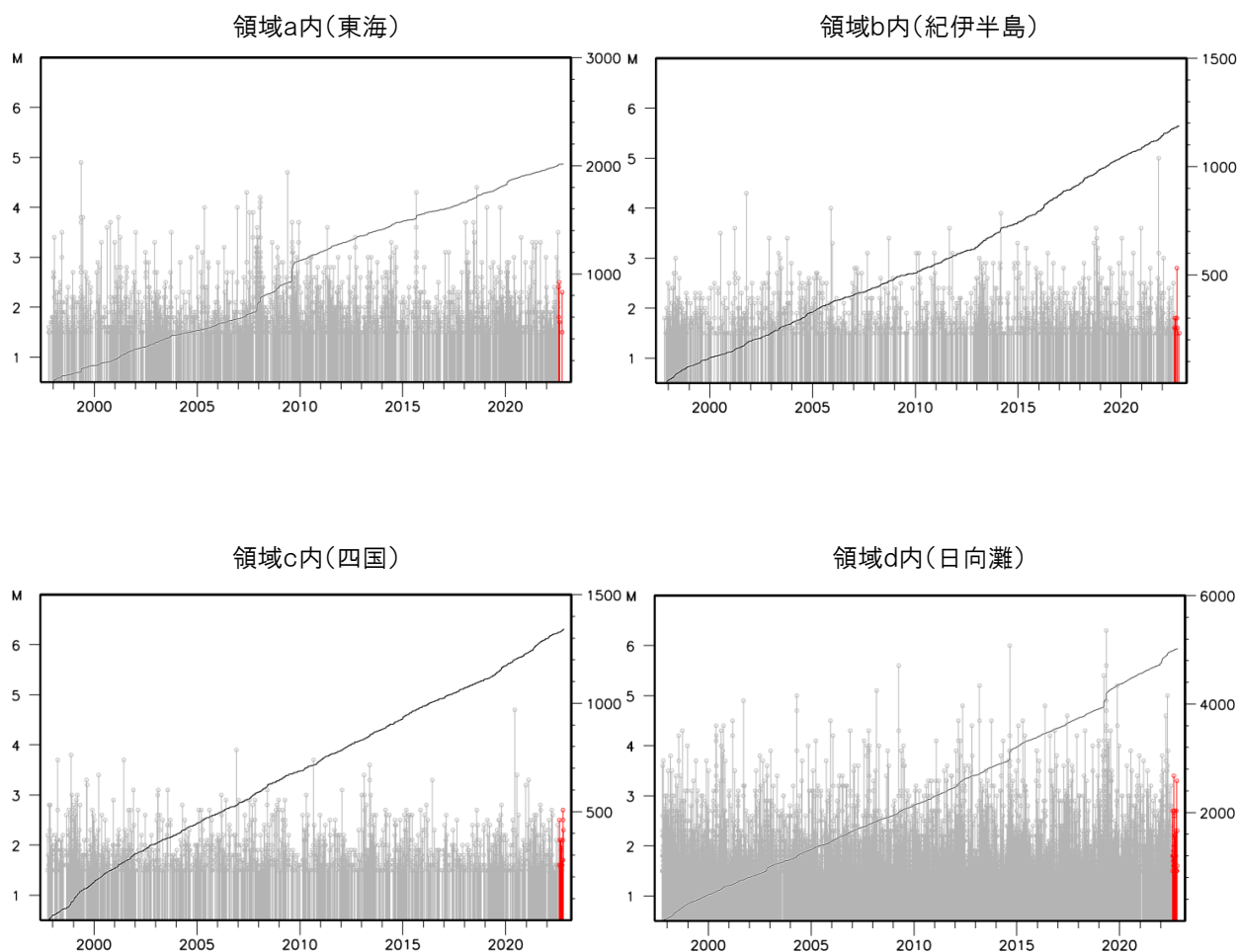
第 16 図 (a) プレート境界とその周辺の地震活動。

Fig. 16(a) Seismic activity around the plate boundary.

## プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図  
(1997年10月1日～2022年10月31日、 $M \geq 1.5$ 、2022年8月以降の地震を赤く表示)



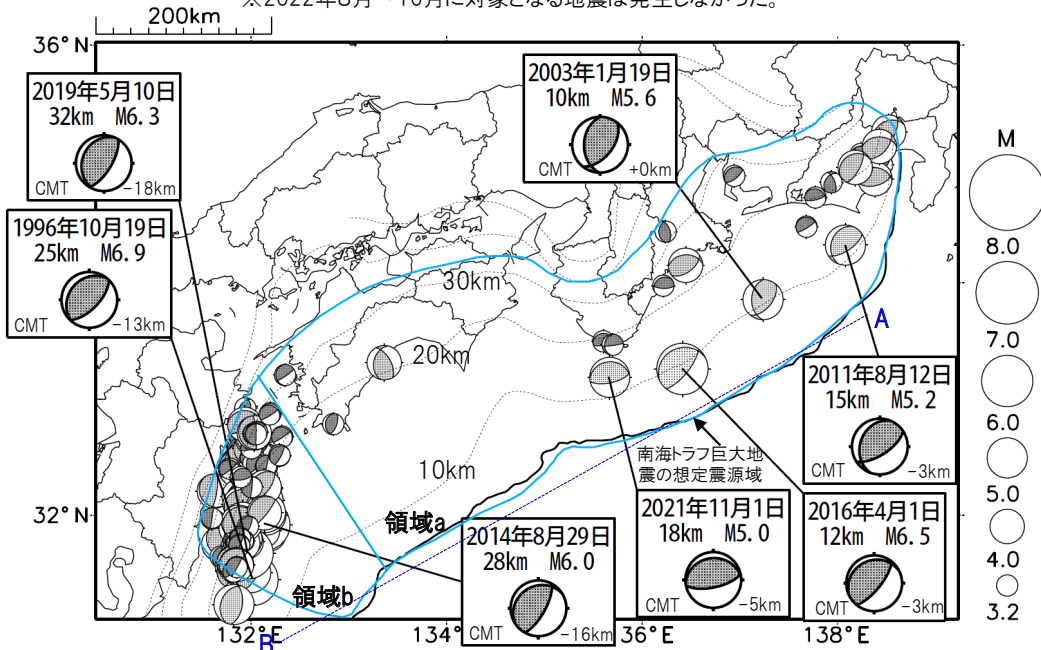
※ $M \geq 1.5$ の地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

第 16 図 (b) つづき.  
Fig. 16(b) Continued.

## 想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

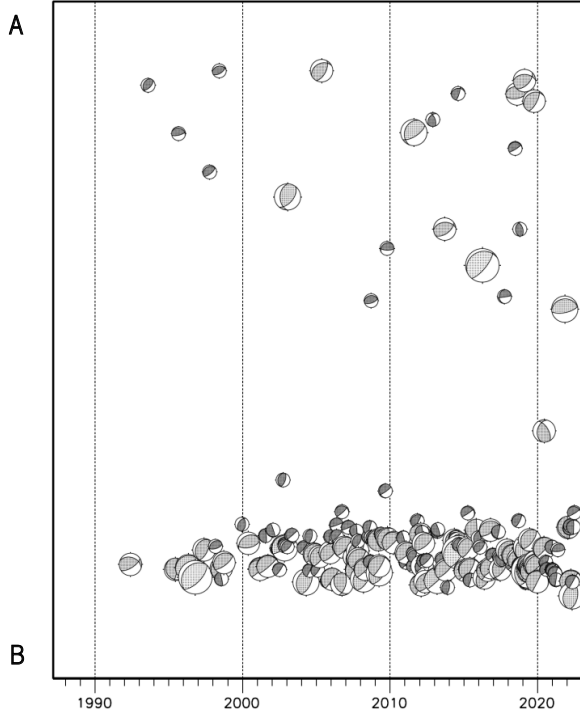
震央分布図(1987年9月1日～2022年10月31日、 $M \geq 3.2$ 、2022年8月～10月の地震を赤く表示)

※2022年8月～10月に対象となる地震は発生しなかった。



- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
- ・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。
- ・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
- ・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

震央分布図内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

**【抽出条件】**

- ・M3.2以上の地震
- ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
- ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。
  - P軸の傾斜角が45度以下
  - P軸の方位角が65度以上180度以下(※)
  - T軸の傾斜角が45度以上
  - N軸の傾斜角が30度以下
- ※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様
- ・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。
- ・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。
- ・東海地方から四国地方(領域a)は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域b)は、+10km～-20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

第 17 図 想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震。

Fig. 17 Earthquakes whose focal mechanisms were similar to that of the anticipated Nankai Trough earthquake.

## 南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2022年10月31日

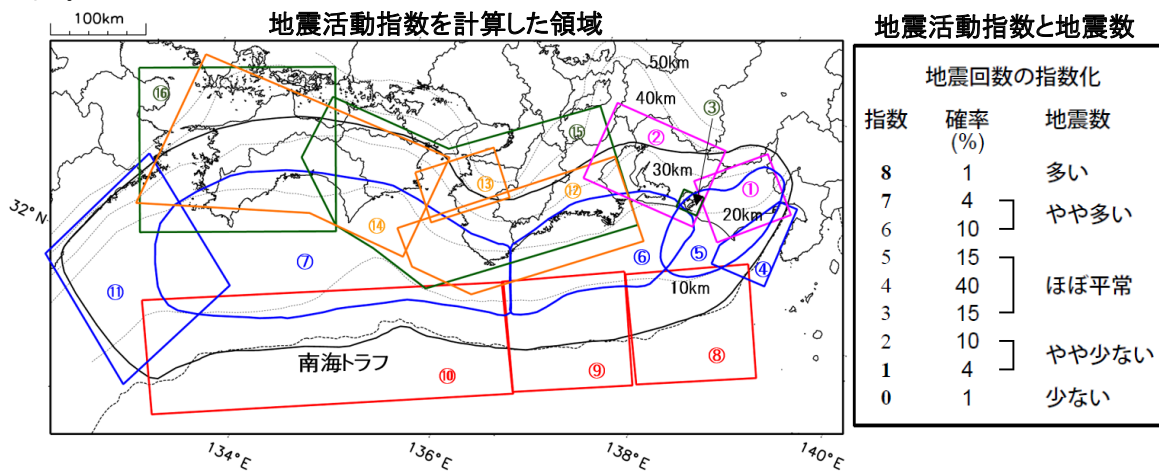
領域	①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥東南海	⑦南海
	地	ブ	地	ブ	ブ	全	全	全	全
地震活動指数	3	0	6	4	4	3	2	6	6
平均回数	16.5	18.3	26.6	13.7	13.2	13.2	18.1	19.8	21.6
MLきい値	1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離		3km		3km	10km	10km	10km	10km
	日数		7日		7日	10日	10日	10日	10日
対象期間	60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ	0~ 30km	0~ 60km	0~ 30km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 100km	0~ 100km

領域	南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国
	⑧東側	⑩西側	全	地	地	地	ブ	ブ
	全	全	全	地	地	地	ブ	ブ
地震活動指数	6	4	5	4	4	4	2	7
平均回数	12.6	14.5	20.7	22.9	41.6	30.9	27.8	28.2
MLきい値	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
クラスタ 除去	距離		10km	10km	10km	3km	3km	3km
	日数		10日	10日	10日	7日	7日	7日
対象期間	720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ	0~ 100km	0~ 100km	0~ 100km	0~ 20km	0~ 20km	0~ 20km	20~ 100km	20~ 100km

\* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2022年10月31日

\* 領域欄の「地」は地殻内、「ブ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

\* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



\* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

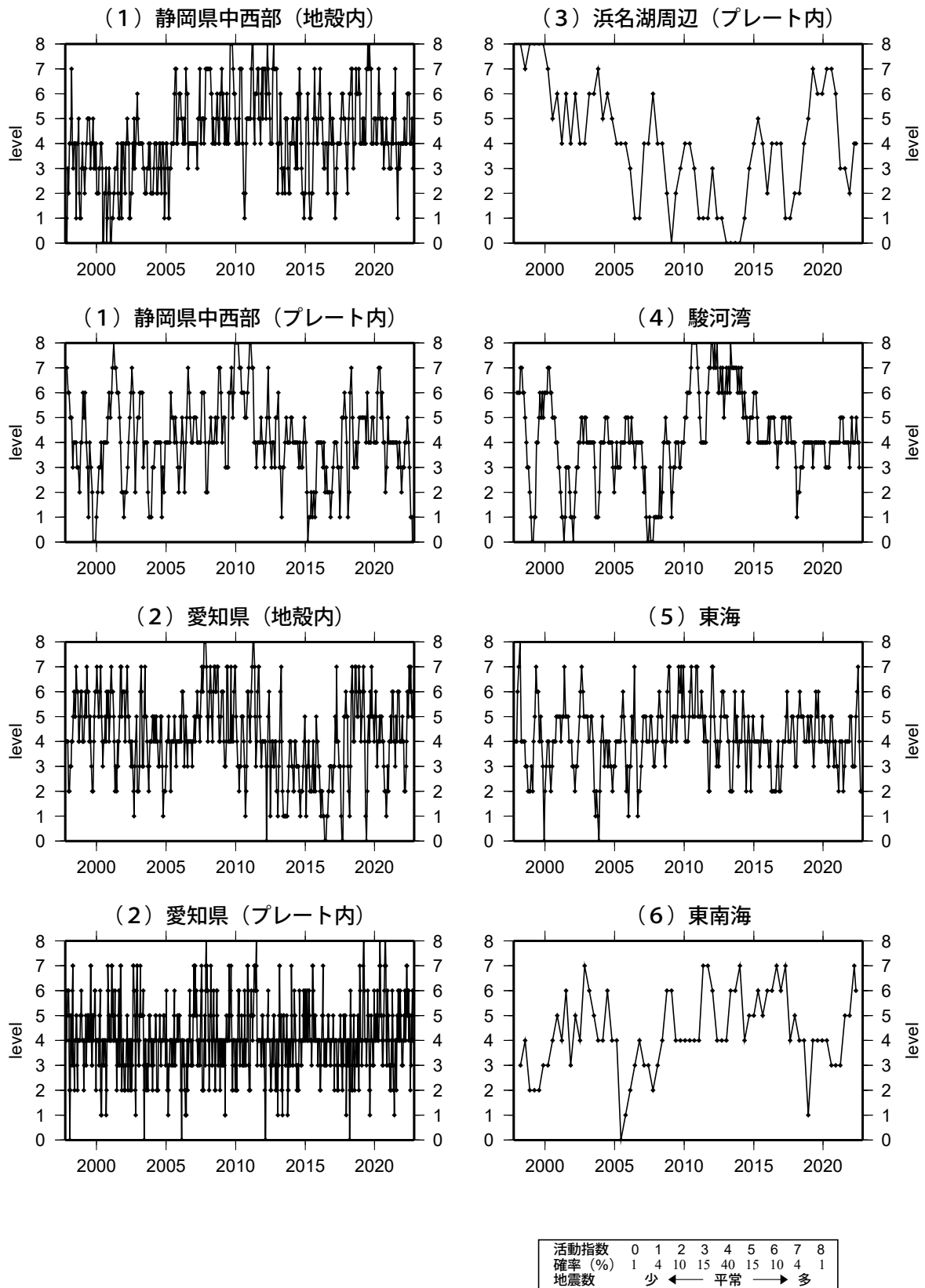
\* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

第 18 図 南海トラフ周辺の地震活動指数の表。

Fig. 18 Table of seismic activity levels in and around the Nankai Trough.

地震活動指数一覧

2022年10月31日

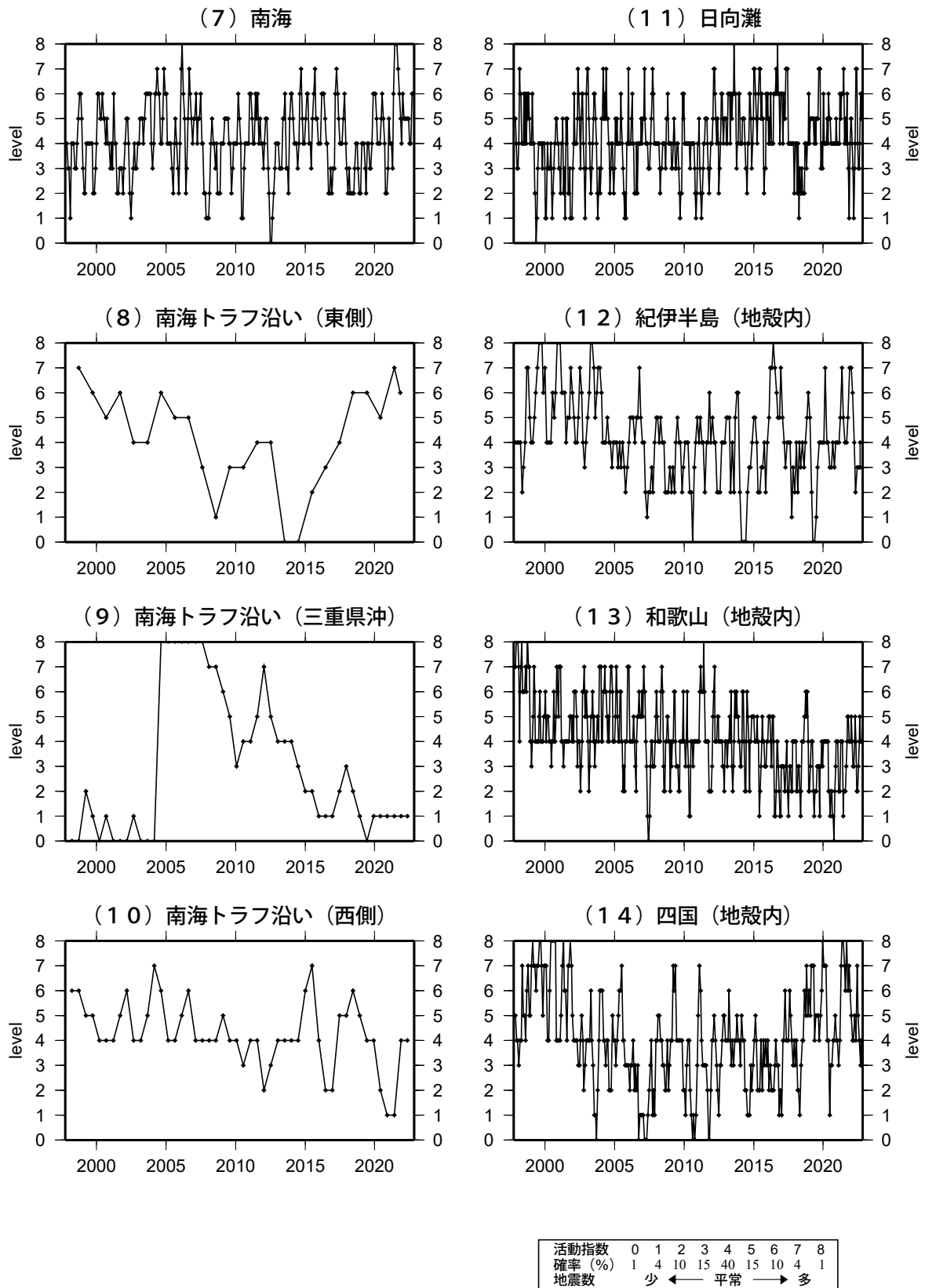


第 19 図 (a) 南海トラフ周辺の地震活動指数の推移.

Fig. 19(a) Time series of seismic activity levels in and around the Nankai Trough.

地震活動指数一覧

2022年10月31日

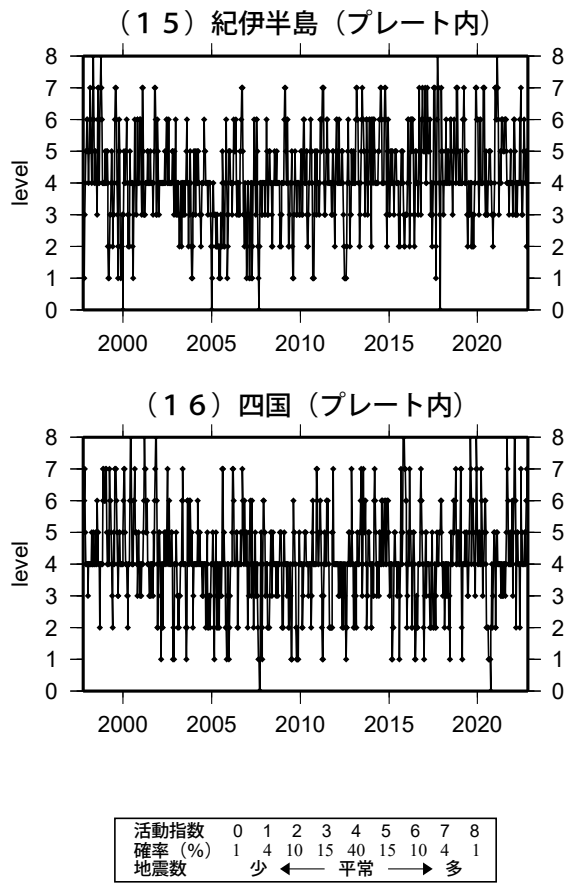


第 19 図 (b) つづき.

Fig. 19(b) Continued.

地震活動指数一覧

2022年10月31日



第 19 図 (c) つづき.

Fig. 19(c) Continued.